

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年4月1日  
(第60期) 至 平成25年3月31日

**日本金銭機械株式会社**

大阪市平野区西脇二丁目3番15号

(E01698)

# 目次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	6
5. 従業員の状況	7
第2 事業の状況	8
1. 業績等の概要	8
2. 生産、受注及び販売の状況	9
3. 対処すべき課題	10
4. 事業等のリスク	12
5. 経営上の重要な契約等	13
6. 研究開発活動	14
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	14
第3 設備の状況	16
1. 設備投資等の概要	16
2. 主要な設備の状況	16
3. 設備の新設、除却等の計画	17
第4 提出会社の状況	18
1. 株式等の状況	18
(1) 株式の総数等	18
(2) 新株予約権等の状況	18
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	18
(4) ライツプランの内容	18
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	18
(6) 所有者別状況	19
(7) 大株主の状況	19
(8) 議決権の状況	20
(9) ストックオプション制度の内容	20
2. 自己株式の取得等の状況	21
3. 配当政策	22
4. 株価の推移	22
5. 役員の状況	23
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	26
第5 経理の状況	33
1. 連結財務諸表等	34
(1) 連結財務諸表	34
(2) その他	68
2. 財務諸表等	69
(1) 財務諸表	69
(2) 主な資産及び負債の内容	86
(3) その他	89
第6 提出会社の株式事務の概要	90
第7 提出会社の参考情報	91
1. 提出会社の親会社等の情報	91
2. その他の参考情報	91
第二部 提出会社の保証会社等の情報	92
[ 監査報告書 ]	

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【事業年度】	第60期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	日本金銭機械株式会社
【英訳名】	JAPAN CASH MACHINE CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上東 洋次郎
【本店の所在の場所】	大阪市平野区西脇二丁目3番15号
【電話番号】	06(6703)8400(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員人事総務企画本部長 高垣 豪
【最寄りの連絡場所】	大阪市平野区西脇二丁目3番15号
【電話番号】	06(6703)8400(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員人事総務企画本部長 高垣 豪
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高(千円)	25,572,545	16,945,832	19,970,138	22,129,470	23,441,214
経常利益又は経常損失( ) (千円)	3,001,109	91,659	516,860	1,259,126	1,852,148
当期純利益又は当期純損失 ( )(千円)	2,009,219	940,110	666,743	778,866	1,432,059
包括利益(千円)	-	-	538,741	416,365	2,207,779
純資産額(千円)	25,300,705	23,343,059	22,426,152	22,464,642	24,294,612
総資産額(千円)	29,711,904	28,775,593	27,886,586	28,710,632	29,449,254
1株当たり純資産額(円)	909.29	865.16	831.19	832.63	900.46
1株当たり当期純利益金額又 は1株当たり当期純損失金額 ( )(円)	69.42	34.42	24.71	28.87	53.08
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	85.2	81.1	80.4	78.2	82.5
自己資本利益率(%)	7.6	-	2.9	3.5	6.1
株価収益率(倍)	12.8	-	28.5	27.7	19.3
営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	4,317,473	2,697,787	1,024,650	729,928	918,826
投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	214,896	2,970,097	1,345,073	535,967	166,426
財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	2,136,444	1,125,020	111,848	317,975	537,863
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	12,559,163	11,193,347	8,150,518	6,508,748	6,982,706
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	601 [134]	627 [120]	559 [101]	575 [111]	569 [115]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第56期、第58期、第59期並びに第60期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第57期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第57期の自己資本利益率、株価収益率は、当期純損失及び1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月
売上高(千円)	17,375,172	7,626,106	12,321,886	10,195,066	9,787,900
経常利益又は経常損失( ) (千円)	712,043	1,188,737	24,030	369,013	1,147,794
当期純利益又は当期純損失 ( )(千円)	2,536,019	1,813,210	330,149	40,708	1,024,045
資本金(千円)	2,216,945	2,216,945	2,216,945	2,216,945	2,216,945
発行済株式総数(株)	29,662,851	29,662,851	29,662,851	29,662,851	29,662,851
純資産額(千円)	20,037,957	16,330,314	16,092,306	15,758,922	16,465,299
総資産額(千円)	23,203,619	19,181,009	19,131,016	18,666,819	18,907,808
1株当たり純資産額(円)	720.15	605.25	596.44	584.09	610.27
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	22.00 (11.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)	18.00 (7.00)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 ( )(円)	87.63	66.38	12.24	1.51	37.96
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	86.4	85.1	84.1	84.4	87.1
自己資本利益率(%)	12.7	-	2.0	0.3	6.4
株価収益率(倍)	10.2	-	57.6	530.2	26.9
配当性向(%)	25.1	-	114.4	927.9	47.4
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	329 [36]	265 [36]	222 [28]	213 [26]	209 [21]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第56期、第58期、第59期並びに第60期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第57期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第56期の中間配当及び期末配当についての取締役会決議は、それぞれ平成20年10月31日、平成21年6月4日に行っております。

5. 第57期の中間配当及び期末配当についての取締役会決議は、それぞれ平成21年11月5日、平成22年6月2日に行っております。

6. 第58期の中間配当及び期末配当についての取締役会決議は、それぞれ平成22年11月2日、平成23年6月3日に行っております。

7. 第59期の中間配当及び期末配当についての取締役会決議は、それぞれ平成23年11月2日、平成24年6月4日に行っております。

8. 第60期の中間配当及び期末配当についての取締役会決議は、それぞれ平成24年10月31日、平成25年6月3日に行っております。

9. 第57期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向は、当期純損失及び1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和30年1月	国産金銭登録機の販売、修理および関連業務を目的として大阪市南区日本橋筋（現中央区）に日本金銭機械株式会社を設立。
昭和32年2月	東住吉工場（大阪市東住吉区西今川町）を新設、メーカーへ転換し金銭登録機の製造販売開始。
昭和34年2月	金銭登録機の製造の規模を拡大するため、大阪市東住吉区平野馬場町（現在の本社所在地）に新工場建設移転。
昭和44年10月	貨幣処理機器の製造販売開始。
昭和62年6月	金銭登録機の海外生産を目的として、香港に子会社JCM GOLD (H.K.)LTD.およびSHAFTY CO.,LTD.を設立。
昭和63年7月	米国における当社製品の販売拠点として、子会社JCM AMERICAN CORP.を設立。
昭和63年9月	遊技場向機器の製造販売開始。
平成2年10月	経営合理化のため、株式会社サンテックスおよび長浜電子株式会社を吸収合併。
平成3年2月	生産能力増強のため、長浜工場（滋賀県長浜市）を設置。
平成5年9月	大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄に株式を上場。
平成7年9月	大阪証券取引所市場第二部に指定。
平成11年6月	欧州における当社製品の販売拠点として、子会社JAPAN CASH MACHINE GERMANY GMBH.（現JCM EUROPE GMBH.）を設立。
平成12年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成13年4月	株式会社名豊商事（現JCMメイホウ株式会社）の全株式を取得、子会社化。
平成13年10月	会社分割によりジェーシーエムテクノサポート株式会社を設立。
平成16年3月	欧州における当社製品の販売拠点として、子会社JCM UNITED KINGDOM LTD.を設立。
平成16年9月	東京証券取引所および大阪証券取引所市場第一部に指定。
平成17年1月	会社創立50周年を迎える。
平成17年11月	国内生産能力の増強、物流機能の集約並びに効率化のため、長浜工場を増築。
平成18年9月	ソフトウェア開発を目的として、タイに子会社J-CASH MACHINE(THAILAND)CO.,LTD.を設立。
平成21年5月	株式会社サミーシステムズ（現JCMシステムズ株式会社）の全株式を取得、子会社化。
平成21年7月	当社の遊技場向機器事業を分割し、JCMシステムズ株式会社に承継。
平成21年8月	当社のアミューズメント事業を分割し、JCMシステムズ株式会社に承継。
平成21年9月	JAPAN CASH MACHINE GERMANY GMBH.をJCM EUROPE GMBH.に商号変更。
平成21年10月	遊技場向機器事業の経営合理化のため、JCMシステムズ株式会社にジェーシーエムテクノサポート株式会社を吸収合併。
平成21年12月	欧州事業の経営合理化のため、JCM UNITED KINGDOM LTD.をJCM EUROPE GMBH.の英国支店とし、欧州事業を統合。
平成22年2月	関東地区の業容拡大に備えるため、東京都中央区東日本橋に新事業拠点を取得・移転し、日本金銭機械東京本社及びJCMシステムズ本社として業務を開始。
平成22年9月	甲府研究所を東京本社に移転し、東京本社への営業拠点及び研究開発拠点の統合・集約を完了。
平成22年11月	当社製品の製造及び販売支援を目的として、中国広東省にJCM CHINA CO.,LTD.を設立。
平成25年4月	JCMシステムズ株式会社に当社の国内営業部門を会社分割するとともに、JCMメイホウを同社の完全子会社とし、国内販売事業の統合を完了。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は日本金銭機械株式会社（当社）及び連結子会社8社により構成されており、当社及び各子会社が営んでいる主な事業は金銭関連機器の製造・販売等であります。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の各製品群は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントに区分されます。

#### 貨幣処理機器製品

主要製品、製品細目及びその用途は以下のとおりであります。なお、該当するセグメントは、「日本金銭機械」、「北米地域」、「欧州地域」、「アジア地域」であります。

主要製品	製品細目	用途
コンポーネント機器	紙幣識別機ユニット	ゲーム機、自動販売機等の紙幣受取部として使用されます。
	紙幣還流ユニット	同一ユニット内で紙幣の受取りと払出しの双方を行い、受取った紙幣をユニット内に一時保管した後、釣銭等として払出す（還流）ことが可能な装置であり、ATM端末等で使用されます。
貨幣処理機器	自動納金機	異金種が混在している貨幣の金種を選別し、枚数を計数したうえで保管する装置で、タクシー営業所及び流通小売店舗等において単独若しくは現金警送システムの端末機として使用されます。
	入出金機・釣銭機	スーパーマーケット、外食産業、ガソリンスタンド等、来店客との金銭授受の頻度が高く、また金銭管理の正確化、効率化を必要とする場所での現金授受業務の改善を目的として使用されます。
	紙幣鑑別機	金融機関の外国為替窓口等で紙幣の真偽鑑別手段として使用されます。
OEM端末機	OEM端末機	他社に対して、OEM供給する製品であります。

#### 遊技場向機器製品

主要製品、製品細目及びその用途は以下のとおりであります。なお、該当するセグメントは、「遊技場向機器事業」であります。

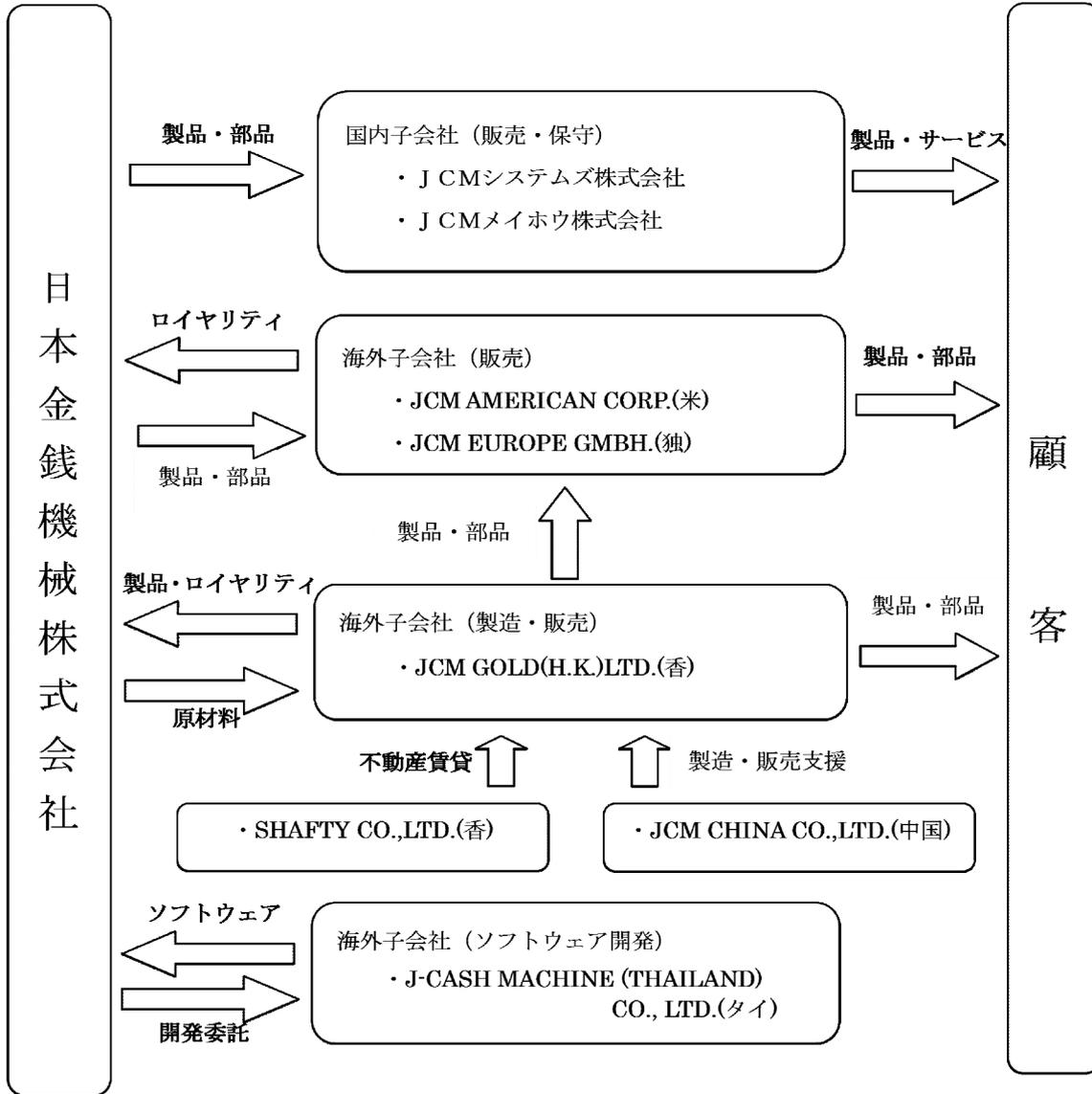
主要製品	製品細目	用途
遊技場向機器	メダル自動補給システム	パチンコ店のパチスロ機及び台間メダル貸機へ不足するメダルを補給するとともに、パチスロ機からオーバーフローしたメダルを自動的に回収、洗浄する装置であります。
	iクリアシステム	電子認証システム協議会のシステムであり、パチンコ店にて玉及びメダル貸出しに係る総合的な管理を行うほか、第三者機関を通じて透明性の高い健全な玉・メダル貸しシステムを実現します。
	景品POSシステム	パチンコ店のカウンターに設置され、遊技客が獲得した玉及びメダルを景品に交換するとともに、景品在庫をトータル管理するシステムであります。
	パチスロ機・パチンコ機	パチンコ店において遊技機として使用されます。
	貨幣払出機	景品交換所において、金額に応じた貨幣を払出す目的で使用されます。

#### その他

主要製品、製品細目及びその用途は以下のとおりであります。なお、該当するセグメントは、「日本金銭機械」、「遊技場向機器事業」であります。

主要製品	製品細目	用途
アミューズメント事業	-	ゲームセンターの運営。
環境関連機器	環境関連機器	パチンコ店、病院等で空気清浄用に使われます。

以上の事項を事業系統図によって示すと以下のとおりとなります。



・は連結子会社であります。

#### 4【関係会社の状況】

##### 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容(注1)	議決権の所有割合(%)	関係内容
JCMシステムズ(株) (注2)(注4)	大阪市平野区	100,000千円	遊技場向機器事業	100	当社より製品を仕入れ、販売しております。また、当社が販売した製品のメンテナンスを受託しております。 役員の兼任等・・・有 保証債務・・・有
JCMメイホウ(株) (注5)	東京都台東区	50,000千円	遊技場向機器事業	100	当社より製品を仕入れ、販売しております。 役員の兼任等・・・有 保証債務・・・有
JCM AMERICAN CORP. (注2)(注4)	米国ネバダ州	7,200千US\$	北米地域	100	当社より製品及び部品を仕入れ、販売しております。 役務提供等の対価として当社はロイヤリティを受け取っております。 役員の兼任等・・・有
JCM EUROPE GMBH. (注2)(注4)	ドイツ デュッセルドルフ市	1,650千EUR	欧州地域	100	当社より製品及び部品を仕入れ、販売しております。 役務提供等の対価として当社はロイヤリティを受け取っております。 役員の兼任等・・・有
JCM GOLD(H.K.)LTD. (注2)	香港	17,500千HK\$	アジア地域	100	当社より原材料を仕入れ、製品を製造し、当社に販売しております。 役務提供等の対価として当社はロイヤリティを受け取っております。 役員の兼任等・・・有 資金の貸付・・・有
SHAFTY CO.,LTD.	香港	7,500千HK\$	アジア地域	100	JCM GOLD(H.K.)LTD.等へ不動産を賃貸しております。 役員の兼任等・・・有
JCM CHINA CO.,LTD. (注3)	中国 広東省	500千人民元	アジア地域	100 (100)	JCM GOLD(H.K.)LTD.へ当社製品の製造・販売支援を行っております。 役員の兼任等・・・有
J-CASH MACHINE (THAILAND)CO.,LTD.	タイ バンコク市	5,000千 タイパーツ	アジア地域	100	当社よりソフトウェアの開発を受託しております。 役員の兼任等・・・有

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2. 特定子会社に該当いたします。  
3. 議決権の所有割合欄の( )内は間接所有割合で内数であります。  
4. JCM AMERICAN CORP.、JCM EUROPE GMBH.及びJCMシステムズ株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、セグメント情報の北米地域、欧州地域及び遊技場向機器事業の売上高に占める、それぞれの売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。)の割合が90%を超えておりますので、主要な損益情報等の記載を省略しております。  
5. JCMメイホウ株式会社は、当社グループ内における組織再編により、平成25年4月1日付で当社の完全子会社からJCMシステムズ株式会社の完全子会社に変更となりました。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
日本金銭機械	209	(21)
遊技場向機器事業	136	(22)
北米地域	94	(61)
欧州地域	63	(11)
アジア地域	67	(-)
合計	569	(115)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(嘱託、パートタイマー及び派遣社員含む。)は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
209 (21)	41.3	14.4	6,178

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(嘱託、パートタイマー及び派遣社員含む。)は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3. 提出会社の従業員は日本金銭機械セグメントに属しております。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、米国では緩やかな回復傾向をたどりましたが、欧州では南欧諸国の財政危機問題の長期化から低調に推移するとともに、その影響から中国を中心とする新興国の成長にも陰りが見えるなど、総じて減速状態を続けてまいりました。一方、日本国内では、復興関連需要を背景に景気が持ち直しの動きを続けるなか、昨年末の政権交代を契機として円安・株高基調に転じ、企業の業況感や消費者マインドに改善が見られるようになるなど、景気の本格的な回復に対する期待が高まってまいりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、欧州ゲーミング市場では、厳しい経済状況を反映して需要の伸張は見られませんでした。北米ゲーミング市場では、一部の州で新規需要が続くとともに、過去に販売した紙幣識別機ユニットからの入替需要も拡大するなど、好調に推移いたしました。一方、国内は、流通市場向けでは新製品を中心に需要が順調に推移し、また、遊技場向機器市場では、パチスロ遊技機の設置台数は増加基調が続いているものの、その伸び率は鈍化いたしました。

このような状況のもと、当社グループでは、国内外とも新製品を中心に販売力の強化や市場シェアの拡大に努めるとともに、国内での販売事業の統合に向けた取組みや、より一層のコストダウンの達成に向けたグループ生産体制の見直しに着手するなど、引き続き事業構造の改革を進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は234億41百万円（前連結会計年度比5.9%増）、営業利益は13億30百万円（前連結会計年度比26.4%増）となりました。また、決算期末にかけて為替が急速に円安に推移したことにより、為替差益（為替時価換算差額）を営業外収益に計上したことから、経常利益は18億52百万円（前連結会計年度比47.1%増）となり、当期純利益は14億32百万円（前連結会計年度比83.9%増）となりました。

なお、当連結会計年度の平均為替レートは、米ドル80.11円（前連結会計年度79.62円）、ユーロ103.48円（前連結会計年度111.42円）で推移いたしました。

セグメント別の業績については、以下のとおりであります。

#### 日本金銭機械

近年、製品開発に注力してまいりましたOEM顧客向け紙幣還流ユニットや流通市場向け紙幣・硬貨釣銭機の新製品の販売を開始し、顧客への売上高は増加いたしました。一方、グループ内取引である遊技場向機器事業に係る子会社向けの販売は減少したことなどから、当セグメントの売上高は97億87百万円（前連結会計年度比4.0%減）となりました。また、セグメント利益は事業構造改革効果の実現と製品原価低減に注力したことなどから11億35百万円（前連結会計年度比218.5%増）となりました。

#### 遊技場向機器事業

期前半における需要は引き続き堅調に推移したものの、期後半における需要に勢いを欠き、関連設備機器の販売が減少したことから、当セグメントの売上高は94億98百万円（前連結会計年度比10.5%減）、セグメント利益は71百万円（前連結会計年度比49.5%減）となりました。

#### 北米地域

金融・流通・交通市場向け紙幣識別機ユニットのOEM顧客への販売が増加し、また、ゲーミング市場向けでは、オハイオ州など新規カジノにおける受注獲得や、過去に販売した旧タイプの紙幣識別機ユニットの入替を促進したことなどから、当セグメントの売上高は76億51百万円（前連結会計年度比33.9%増）、セグメント利益は5億5百万円（前連結会計年度比280.2%増）となりました。

#### 欧州地域

ドイツにおけるゲーミング規制強化による需要減退が懸念されるなか、主要顧客との関係強化を図りつつ、紙幣還流ユニットなどの高付加価値製品による市場開拓に努めたことから、売上高は現地通貨ベースでは増加いたしました。しかしながら、期中の為替相場がユーロ安で進行したことから、当セグメントの売上高は38億44百万円（前連結会計年度比4.6%減）、セグメント利益は2億28百万円（前連結会計年度比33.3%減）となりました。

#### アジア地域

当セグメントは、主に当社グループの生産機能を担っております。当連結会計年度は、北米向けの出荷が増加したことなどから、当セグメントの売上高は91億12百万円（前連結会計年度比21.4%増）、セグメント利益は1億44百万円（前連結会計年度比101.9%増）となりました。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、4億73百万円増加し、69億82百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、9億18百万円の資金の増加（前連結会計年度は7億29百万円の資金の減少）となりました。主な資金の増加は、税金等調整前当期純利益が前連結会計年度に比べ7億71百万円増加し、18億63百万円となりました。一方、主な資金の減少は、売上債権・たな卸資産・仕入債務の各運転資本の増減8億12百万円、引当金の減少3億円、法人税等の支払額3億43百万円などを計上いたしました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億66百万円の資金の減少（前連結会計年度比68.9%減）となりました。主に、有形固定資産並びに無形固定資産の取得による支出3億35百万円を計上する一方で、投資有価証券の売却による収入96百万円などを計上いたしました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億37百万円の資金の支出（前連結会計年度比69.2%増）となりました。主に、リース債務の返済による支出1億88百万円、配当金の支払額3億74百万円などを計上する一方で、リース債務の増加による収入24百万円などを計上いたしました。

また、これらのほかに、現金及び現金同等物に係る換算差額2億59百万円の資金の増加がありました。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
日本金銭機械	8,470,427	102.5
アジア地域	8,104,272	127.9
合計	16,574,700	113.5

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価額(消費税等抜き)で表示しております。

### (2) 製品仕入実績

当連結会計年度の製品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
日本金銭機械	76,446	123.3
遊技場向機器事業	567,242	108.0
合計	643,689	109.6

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価額(消費税等抜き)で表示しております。

### (3) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
日本金銭機械	235,005	553.1	639	1.5

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価額(消費税等抜き)で表示しております。

#### (4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
日本金銭機械	2,487,762	137.7
遊技場向機器事業	9,291,274	89.4
北米地域	7,616,609	134.9
欧州地域	3,804,306	94.8
アジア地域	241,261	87.7
合計	23,441,214	105.9

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価額(消費税等抜き)で表示しております。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題の内容、対処方針について

当社グループは、新製品の積極的な投入など販売面でのこ入れにより、OEM顧客からの受注案件が従前以上に増加するとともに、これまでの構造改革の効果もあり、3期連続の増収増益を達成するなど、一時期の低迷から脱し、安定的な収益体制を構築しつつあります。引き続き、更なる業績の向上に向け、以下の4つの重点施策に取り組んでおります。

貨幣処理機器分野において、新興国、未開拓市場への積極展開を図る。

グローバル市場規模において、これまでに培った北米、欧州市場でのゲーム機メーカー、顧客、また、国内市場での大手OEM、ホール運営会社等との関係強化、さらには新たなパートナーとの協力関係の構築を目指す。新製品、新技術の開発、商品化のための積極投資を継続し、次世代の収益基盤を支える新たなビジネスの創出を目指す。

当社グループの事業内容、規模に適応し、かつ柔軟、迅速な事業展開が可能なグループ体制の再構築に向けた取組みを加速させる。

#### (2) 会社の支配に関する基本方針について

##### 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当該企業価値の向上、ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保・向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。

当社は株式の大量買付けであっても、当社の企業価値の向上、ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。また、会社の支配権の移転を伴うような大量の株式の買付提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様の総意に基づき行われるべきものであります。

しかし、株式の大量買付行為の中には、特定分野の事業や資産、技術、ノウハウのみを買収の対象とするなど、その目的等から見て企業価値の向上、ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付行為について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするものなど、対象会社の企業価値の向上、ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社グループの企業価値の源泉は、永年にわたって培ってきた紙幣の鑑識別・搬送等を中心とした貨幣処理に関する技術力と強固な財務基盤を背景に、将来を見越した基礎研究や技術開発の実践を通じて、世界のあらゆる市場に対して広範囲にわたる貨幣処理省力化機器の開発・製造・販売を進めることにあります。

このような当社の企業価値の源泉を理解せず、当該企業価値の向上、ひいては株主共同の利益に資さない大量買付けを行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような買収に対しては、当社は必要かつ相当な対応策を採ることにより、当社の企業価値の向上、ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

#### 基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、創業以来培ってきた紙幣の鑑識別・搬送等を中心とした貨幣処理に関する技術力と強固な財務基盤を背景に、世界のあらゆる市場に対して広範囲にわたる貨幣処理省力化機器の開発・製造・販売を進めるなど、グループとして特徴ある事業展開を行っております。

当社はこれら特徴ある事業を通じて経済、社会の発展に貢献するとともに、時代のニーズに応じた社会環境やセキュリティ体制作りに寄与しており、今後も高品質・高性能の当社製品が市場で広く認知され、各分野に浸透していくことを目指す所存であります。

また、株主の皆様への利益還元につきましては、連結配当性向30%以上という方針を掲げており、今後も当該方針に従った利益還元を実施してまいります。

#### 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、平成23年6月28日開催の第58期定時株主総会において、現在の当社株式の大量買付行為に関する対応策（以下、「本プラン」という。）につき株主の皆様のご承認をいただいております。その具体的内容は次のとおりであります。

- イ．当社株式の保有割合が20%以上となる買付行為を行う買付者等に対し、当該買付け等の実施前に意向表明書を、また、意向表明書受領後10営業日以内に、株主の皆様のご判断や当社取締役会の意見形成等に必要な情報を提供を求めます。
- ロ．当社取締役会は、提供された情報の評価・検討、買付者等との交渉等あるいは当該買付け等に対する意見形成や代替案の策定等を行うための時間的猶予として、内容に応じて60日又は90日の評価期間を設定する。
- ハ．当社取締役会は、上記評価期間内において買付内容の評価・検討、買付者等との協議・交渉を行い、株主の皆様にご代替案の提示を行う。評価期間内に本プランの発動又は不発動の決定に至らない場合は最大30日間（初日不算入）評価期間を延長できる。
- ニ．当社取締役会はその判断の客観性・合理性を担保するため特別委員会を設置し、その勧告を最大限尊重して、最終的な決定を下す。特別委員会から本プラン発動に係る株主総会の招集を勧告された場合には、可能な限り最短の期間で株主総会を招集し、本プラン発動に関する議案を付議する。
- ホ．本プランが発動された場合、新株予約権の無償割当ての方法をとり、当社取締役会が定める基準日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様に対し、その保有株式1株につき1個以上の割合で、本新株予約権を割当てる。
- ヘ．新株予約権割当て後、当社は特定大量保有者等、非適格者以外の者の有する未行使の新株予約権を全て取得し、これと引換えに本新株予約権1個に当社普通株式1株を交付する。

#### 上記取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

本プランは、当社の企業価値の向上、ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的な方策として策定されたものであり、当社株式に対する大量買付行為が行われる場合に、買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値の向上、ひいては株主共同の利益を確保しようとするものであり、会社の支配に関する基本方針の実現に資するものであります。

また、本プランは、買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足すること、株主意を重視するものであること（有効期間は平成26年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります）、有効期間満了前であっても株主の皆様のご意向により廃止が可能であること、合理的かつ客観的な発動事由が設定されていること、特別委員会を設置していること、デッドハンド型、スローハンド型の買収防衛策ではないことから、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財政状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末日現在において当社グループが判断したものであります。

##### 経済状況

当社グループにおける全体の売上高のうち、重要な部分を占めるゲーミング市場向けの紙幣識別機ユニットの需要は、販売先の国や地域の経済状況の影響を受けます。また、カジノに代表されるゲーミング業界は遊興のための施設であり、ゲーミング市場自体の景況感、各国の経済状況の他、紛争・テロなどの世界情勢、大規模な地震・風水害・事故など、個人の消費マインドを低下させる事象が発生した場合にも当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### 為替の変動

当社グループの販売先は世界各国に及んでおり、全売上高に占める海外向けの依存度は高くなっております。当社グループ内の海外商流の最適化を図り、為替レートの影響を極力低減するとともに、必要な範囲内で為替予約取引を利用することで、将来の為替レートの変動リスクを回避するように努めております。一方で、為替レートの変動による外貨建資産の期末差額が営業外損益に計上されることも含め、当社グループの業績は為替変動の影響を受けます。

##### 特定の製・商品への依存度

紙幣識別機ユニットは、当社グループの全売上高のうち多くを占める主力製品であるとともに、ゲーミング市場向けに占める割合が高くなっております。当社グループは、北米を筆頭に各国のゲーミング市場で高いシェアを確保しておりますが、同業他社との競合により、そのシェアは変動いたします。将来的にも現在のシェアを維持できるという保証はなく、技術開発競争や価格競争の激化等によって、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

##### ゲーミングに関する法律に基づく規制

カジノ等のゲーミング業界では、犯罪組織とは関係ない者が、真正なゲーム機によって、偽りなく運営することを確保するため、カジノの運営、ゲーム機の製造販売に関して厳しい法規制が実施されております。これらの法規制により、紙幣識別機ユニットをゲーム機に搭載して販売することについても当局の許可が必要となるとともに、米国の一部の州（又は自治区）では、紙幣識別機ユニットもゲーム機の一部と見なされ、ゲーム機と同様に販売に際しての許可が必要となります。このため、世界各国、州等において、紙幣識別機ユニットの販売に許可が必要な場合はもちろん、紙幣識別機ユニットの販売に対して規制がない場合であっても、スロットマシン等のゲーム機に対する法規制が変更される場合においては、当社グループの業績が影響を受ける場合があります。

また、当社グループでは、これらの許認可を取得するにあたり、会社はもちろんのこと、役員個人についても厳しい審査を受けております。万一、当社や関連会社及び役員個人に刑事犯罪などの法令違反行為があった場合は、許認可を取り消され、製品の販売ができなくなることによって、当社グループの業績が影響を受ける場合があります。

##### 風営法に基づく規制

当社グループの遊技場向機器製品の主な販売先であるパチンコホールは、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（以下「風営法」）の適用を受けております。近年においては、遊技客の射幸心を抑える目的で、新しい法律に基づいた新基準機の導入が義務付けられた結果、業界全体の売上高が縮小し、当社グループの同市場向けの売上げも大幅に減少いたしました。将来的にも遊技機の基準が変更されるなど関連する風営法の改正によって、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

##### 海外生産の展開に関するリスク

当社グループでは、海外生産を中国で展開しております。中国での生産の増加は、政治情勢や、人民元の切り上げなどといったカントリーリスクの影響を受けます。これらに備え、中国以外の第三国での生産体制の確立を進めておりますが、中国でのカントリーリスクの影響が急激に深刻化した場合には、生産の縮小、中断等を余儀なくされることになり、業績に影響を与える可能性があります。

##### 部材調達に関するリスク

当社グループの製品は、主に電子部品、樹脂成型部品、金属加工部品を組み立てることで構成されております。当社グループが仕入れる部品は、原油や素材価格の高騰により原価上昇の要因となりえます。また、当社グループでは中国での生産高比率が高く、同国の経済発展に伴う人件費の上昇によっても原価が上昇する可能性があります。

#### 売上債権の貸倒リスク

遊技場(パチンコ)業界では、これまでの商慣習などから、他業種に比べ売上債権の回収期間が長期化する傾向があります。当社グループでは、売上債権に対する与信管理を社内規程に基づき徹底するとともに、一定のルールに基づき貸倒引当金を計上し、貸倒損失が業績に大きな変動を与えないように対処しております。

一方、顧客であるパチンコホールでは、遊技人口の減退とそれに伴うホール数の減少が続いております。このような状況下で、当社グループでは、販売後も顧客の経営状況などを注視し、回収事故が発生しないように努めておりますが、今後の業界の動向によっては、貸倒リスクが高まる可能性があります。

#### 国際税務に関するリスク

移転価格税制に関しては、関係各国の税務当局間であらかじめ当社グループ内における取引価格の設定などについて、事前に承認を受けるAPA(事前確認制度)を申請するなどにより、二重課税などの税務リスクの回避に取り組んでおります。しかしながら、各国の税制の変化並びに各国間の租税条約の締結状況によっては、国際税務に対するリスクが高まる可能性があります。

#### 知的財産権に関するリスク

当社グループが保有する知的財産権については、その保護を積極的に進めております。また、第三者の知的財産権を侵害しないように十分に調査を行ったうえで、製品開発を行っております。しかしながら、各国の法制度の違いなどにより、損害賠償の支払いや製品の販売差止めを求める特許侵害訴訟を受け、又は第三者が当社グループの知的財産権を違法に使用する等により、販売に関する機会損失や賠償金の支払責任が生じる結果として、業績あるいは財務状況に影響を与える可能性があります。

#### 環境対策に関するリスク

当社は、各国や地域の環境法規制を遵守した製品作りを行っております。当社グループは、環境への配慮をさらに高める努力を継続しておりますが、環境を含む各種法規制は国や地域によって様々であるとともに、近年、紛争鉱物の問題などその規制対象は拡大する傾向にあります。また、環境対策や法規制に伴う経済的負担は大きくなっており、当社グループ製品が各種法規制を遵守できなかった場合には、一部の地域で製品の販売ができなくなるなど、業績に影響を与える可能性があります。

#### 各国紙幣の真偽鑑別に関するリスク

当社グループの紙幣識別機ユニットは、世界135カ国以上の貨幣に対応しております。各国の貨幣は、日本の貨幣に比べ改刷の頻度が多く、偽造が多いことや紙幣識別機ユニットに対する不正が多いことが特徴として挙げられます。当社グループでは、ソフトウェアを迅速に改版し、納入後の製品をサポートしております。しかしながら、近年では偽造紙幣や機器への不正は、より巧妙かつスピーディになっております。それゆえ、それらに対処するための費用の増加や顧客への補償費用等が発生することにより、業績に影響を与える可能性があります。

#### 退職給付債務に関するリスク

当社グループの退職給付債務等は、数理計算上設定した退職給付債務の割引率及び年金資産の期待運用収益率といった前提条件に基づいて算出しております。しかし、実際の結果が前提条件と異なる場合には、将来にわたって当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社及び当社グループの一部は、総合設立型の厚生年金基金制度を採用しておりますが、運用環境、基金制度や給付制度の変更等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、上記以外にも様々なリスクがあり、ここに記載されたものが当社グループのすべてのリスクではありません。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、「独創的な商品とサービスを世界の人々に提供しよう」、「成果は顧客のために」という全社の行動指針、及びスローガンを基に、社会情勢や顧客ニーズの多様化に迅速に対応した市場性の高い製品の創出を目指して展開しております。また、新たな市場や、潜在するニーズを技術面から開拓するため、要素技術の開発に努めるとともに、製品開発力そのものの向上にも取り組んでおります。

当連結会計年度における当社グループの研究開発活動は、当社の本社、東京本社、当社の子会社であるJCMシステムズ株式会社及びJ-CASH MACHINE(THAILAND) CO.,LTDにおいて行っております。

なお、当連結会計年度における当社グループ全体の研究開発費は、12億81百万円であります。また、当連結会計年度の研究開発の主な成果は次のとおりであります。

### (1) 日本金銭機械

当連結会計年度には、国内外のOEM顧客向け製品開発を含め、金融・流通・交通市場に向けて、紙幣識別機ユニット・紙幣還流ユニットなどの開発を進めてまいりました。

また、欧州向けには、2金種対応の紙幣還流ユニットの開発を完了いたしました。この製品は、海外紙幣のように額面によって紙幣サイズが異なる場合でも、安定した収納や払い出しを実現しており、主に欧州のゲーミング市場での販売を想定しております。

また、国内交通機関向けとして、顧客のニーズに応えた特別仕様の紙幣識別機ユニットの開発を完了いたしました。

なお、当事業における研究開発費は9億74百万円でありました。

### (2) 遊技場向機器事業

当連結会計年度には、ホールのカウンター用機器として、新型の景品POSシステムの開発を完了いたしました。この製品は、スタッフ業務の軽減に資すると共に、使い易さ、セキュリティの向上、遊技客の利便性の向上や、消費電力の低減を実現しております。

また、セキュリティ、使い易さなどを改善した新型の台間メダル貸機の開発を完了いたしました。

なお、当事業における研究開発費は3億6百万円でありました。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項については、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経営環境は、欧州ゲーミング市場では、厳しい経済状況を反映して需要の伸張は見られませんでした。北米ゲーミング市場では、一部の州で新規需要が続くとともに、過去に販売した紙幣識別機ユニットからの入替需要も拡大するなど、好調に推移いたしました。一方、国内は、流通市場向けでは新製品を中心に需要が順調に推移し、また、遊技場向機器市場では、パチスロ遊技機の設置台数が増加基調が続いているものの、その伸び率は鈍化いたしました。

このような状況のもと、当社グループでは、国内外とも新製品を中心に販売力の強化や市場シェアの拡大に努めるとともに、国内での販売事業の統合に向けた取組みや、より一層のコストダウンの達成に向けたグループ生産体制の見直しに着手するなど、引き続き事業構造の改革を進めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は234億41百万円（前連結会計年度比5.9%増）、営業利益は13億30百万円（前連結会計年度比26.4%増）となりました。また、決算期末にかけて為替が急速に円安に推移したことにより、為替差益（為替時価換算差額）を営業外収益に計上したことから、経常利益は18億52百万円（前連結会計年度比47.1%増）となり、当期純利益は14億32百万円（前連結会計年度比83.9%増）となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「4. 事業等のリスク」に記載のとおりですが、欧州経済の動向や、アジア地域を中心とした新興国の経済成長鈍化、為替相場の変動、原油価格の上昇に伴う原材料価格の高騰や、中国における人件費の上昇等により、当社の販売・生産活動が影響を受ける可能性があります。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、昨年10月31日に平成26年度（平成27年3月期）を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画を公表いたしました。その際公表いたしました具体的な経営数値目標は次のとおりであります。

（単位：百万円）

	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期
売上高	23,000	24,700	26,500
営業利益	1,400	1,750	2,300
当期純利益	900	1,300	1,700

（平成24年10月31日公表値）

なお、当期においては、新製品の積極的な投入など販売面でのこ入れにより、OEM顧客からの受注案件が従前以上に増加するとともに、これまでの構造改革の効果もあり、3期連続の増収増益を達成するなど、一時期の低迷から脱し、安定的な収益体制を構築しつつあります。

これにより、次期（平成26年3月期）の業績予想値については、上記の中期計画値の数値目標を上回ったものとなっております。これらを踏まえ、中期計画についてはローリングを行い新たな計画を検証しているところであります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、現金及び現金同等物が、前連結会計年度末に比べ、4億73百万円増加し、当連結会計年度末は69億82百万円となりました。

営業活動による資金収支は、海外市場の好調な推移を主要因として販売在庫ならびに仕入債務が増加した一方、営業活動での収入が前連結会計年度を上回る水準で推移したことから、9億18百万円の収入となりました。投資活動による資金収支は、生産用金型やアミューズメント店舗用ゲーム機などの固定資産の取得などがありましたので、1億66百万円の支出となりました。財務活動による資金収支は、配当金の支払のほか、リース債務の増加などにより、5億37百万円の支出となりました。

なお、流動比率は507.8%となっており、資金面での問題はありません。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

中長期的な経営戦略として、売上規模・シェアの拡大に向けては、新製品の投入による新興国を中心とした新規市場の開拓や既存市場への更なる深耕策、事業アライアンスを通じた新たな事業領域の拡大を目指してまいります。製品の開発・安定供給に向けては、国内外の受注が拡大する方向にあって、メーカーとして至上命題である技術開発力の向上、品質の安定・向上に取り組み、高度化し多様化する顧客ニーズに即応し、信頼性の確保に努めてまいります。また、これまで推進してきました中国を中心とした生産機能の海外移転や生産工程の外注化を見直し、第三国への生産シフトを進めるとともに、地産地消の観点から将来における欧州・南米などでの生産も視野に入れて検討を進めております。

さらに、メーカーとしての原点回帰を目指し、当社グループのものづくりを担う各部門（開発・生産・品質保証・知財）が一体として機能する「ものづくり2015プロジェクト」を発足させ、顧客、市場からの要求について一元的に対応することにより、そのスピードアップを図りつつ、生産性の向上とコストダウンの実現を目指し、日本国内を含めたグループ全体でのものづくりの現場力の向上と、独立採算まで視野に入れた改革に努めてまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、長期的な成長が期待できる製品分野及び研究開発分野に重点を置き、併せて合理化及び製品の信頼性向上のための設備投資を行っております。

当連結会計年度の設備投資の総額（無形固定資産への投資を含む）は3億50百万円であります。

その主なものは、日本金銭機械における生産用金型1億36百万円、遊技場向機器事業におけるアミューズメント事業用ゲーム機46百万円であります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1)提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	土地		建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	リース 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	従業員数 (人)
			面積 (㎡)	金額 (千円)						
本社 (大阪市平野区)	日本金銭機械	本社機能	3,494	60,511	224,112	110	-	446,405	731,140	109 (-)
長浜工場 (滋賀県長浜市)	日本金銭機械	生産、物流 設備	23,929	296,691	493,254	6,121	-	8,657	804,725	33 (17)
広島工場 (広島市佐伯区)	日本金銭機械	生産、物流 設備	-	-	-	-	-	488	488	4 (1)
東京本社 (東京都中央区)	日本金銭機械	販売、研究 設備	684	1,091,018	1,019,275	0	-	30,520	2,140,814	63 (3)
その他 (大阪市平野区 他)	日本金銭機械	福利厚生施 設	612	17,172	10,148	-	-	-	27,320	- (-)

##### (2)国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内 容	土地		建物及 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	リース 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	従業員数 (人)
				面積 (㎡)	金額 (千円)						
JCMシステムズ (株)	本社 (大阪市 平野区)	遊技場向機 器事業	販売、サ ービスメ ンテナ ンス設備	5,497	13,550	86,820	0	223,940	156,596	480,907	119 (21)
JCMメイホウ(株)	本社 (東京都 台東区)	遊技場向機 器事業	販売設備	-	-	3,411	-	-	89	3,501	20 (1)

## (3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	土地		建物及 び構築 物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	リース 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	従業員数 (人)
				面積 (㎡)	金額 (千円)						
JCM AMERICAN CORP.	本社 (米国のネバ ダ州)	北米地域	販売、 サービ スマン テナン ス設備	22,756	264,483	262,197	26,951	-	12,583	566,217	94 (61)
JCM EUROPE GMBH.	本社 (ドイツ デュッセル ドルフ市)	欧州地域	販売設 備	-	-	1,168	1,881	-	14,957	18,007	63 (11)
JCM GOLD(H.K.) LTD.	本社 (香港)	アジア地域	生産、 販売設 備	-	-	40	-	-	3,281	3,321	23 (-)
SHAFTY CO.,LTD.	本社 (香港)	アジア地域	賃貸不 動産	-	-	46,937	-	-	-	46,937	- (-)
JCM CHINA CO.,LTD.	中国 広東省	アジア地域	サービ ス設備	-	-	-	-	-	9,729	9,729	35 (-)
J-CASH MACHINE (THAILAND) CO.,LTD.	本社 (タイ バンコク 市)	アジア地域	研究設 備	-	-	-	1,984	-	6,200	8,184	9 (-)

- (注) 1. 上記金額は、帳簿価額(消費税抜き)で表示しております。  
2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。  
3. 上記のほかに営業所等を賃借しており、年間賃借料は414,092千円であります。  
4. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(嘱託、パートタイマー及び派遣社員含む。)は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設

当連結会計年度末現在において、重要な設備の新設の計画はありません。

## (2) 重要な設備の除却等

当連結会計年度末現在において、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	118,000,000
計	118,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,662,851	29,662,851	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	29,662,851	29,662,851	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日 (注)	35,970	29,662,851	35,250	2,216,945	35,250	2,063,905

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

## (6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	30	31	96	76	8	13,984	14,225	-
所有株式数(単元)	-	44,587	3,523	71,780	12,159	13	163,657	295,719	90,951
所有株式数の割合(%)	-	15.08	1.19	24.27	4.11	0.00	55.34	100	-

(注) 1. 自己株式2,682,553株は、「個人その他」に26,825単元、及び「単元未満株式の状況」に53株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ15単元及び25株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
上東興産株式会社	兵庫県尼崎市武庫之荘2-27-15	4,661	15.72
上東 宏一郎	兵庫県尼崎市	2,707	9.13
上東 洋次郎	大阪市阿倍野区	1,458	4.92
株式会社マースエンジニアリング	東京都新宿区新宿1-10-7	1,000	3.37
上東 保	大阪市阿倍野区	874	2.95
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2-2-1	629	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	574	1.94
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	503	1.70
株式会社ヤマオカ	兵庫県尼崎市西長洲町2-2-55	500	1.69
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	424	1.43
計	-	13,334	44.95

(注) 上記のほか、自己株式が2,682千株あります。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,682,500	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,889,400	268,894	同上
単元未満株式	普通株式 90,951	-	-
発行済株式総数	29,662,851	-	-
総株主の議決権	-	268,894	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,500株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数15個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本金銭機械株式会社	大阪市平野区西脇 2 - 3 - 15	2,682,500	-	2,682,500	9.04
計	-	2,682,500	-	2,682,500	9.04

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	205	132,445
当期間における取得自己株式	525	625,295

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	50	47,850	-	-
保有自己株式数	2,682,553	-	2,683,078	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社グループでは、利益還元に関する基本方針として、業績による成果配分としての位置付けを明確にするため、連結配当性向を30%以上とすることを定めております。当期の期末配当金につきましては、当期純利益が当初の業績予想を上回ったことなどを勘案して普通配当を9円とし、また、平成5年9月1日の株式上場以来、本年で20年を迎えることから、これを記念して、株主の皆様へ感謝の意を表するため1株につき2円の記念配当を実施することといたしました。以上の結果、当期末の1株当たり配当金は11円（中間配当金と合わせて年間18円）となり、配当性向は33.9%、純資産配当率は2.1%となります。

当社グループでは、事業環境の変化に柔軟に対応できる安定的な収益基盤の確保、メーカーとしての生産性向上による競争力の強化及び効率的な事業運営体制の構築を目指し、経営改善策を推進しております。内部留保金については、当該施策の一環として時代の変化に応じた新規事業の開拓、企業買収・提携などの戦略的投資や設備投資など、持続的な成長への基盤整備のための費用として有効に活用してまいります。

なお、当社は、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」旨定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月31日 取締役会決議	188,862	7
平成25年6月3日 取締役会決議	296,783	11

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	948	930	889	800	1,100
最低(円)	590	691	566	535	566

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	733	745	745	840	861	1,100
最低(円)	620	621	703	718	763	871

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		上東 宏一郎	昭和32年12月15日生	昭和53年4月 当社入社 昭和61年6月 社長室長 昭和62年5月 取締役就任 昭和63年4月 E D P 本部長 平成2年1月 管理本部長 平成3年4月 内部監査室長 平成3年6月 常務取締役就任 平成6年6月 代表取締役社長就任 平成10年3月 上東興産株式会社代表取締役社長 就任(現任) 平成19年4月 取締役就任 平成19年6月 取締役会長就任(現任)	(注)3	普通株式 2,707
代表取締役 社長		上東 洋次郎	昭和34年6月5日生	昭和59年10月 当社入社 平成2年1月 JCM GOLD (H.K.)LTD.代表取締役 社長就任 平成5年6月 取締役就任 平成7年4月 JCM AMERICAN CORP.取締役就任 平成7年5月 当社取締役海外営業部長 平成8年7月 JCM GOLD (H.K.)LTD.代表取締役 会長就任 平成11年6月 JAPAN CASH MACHINE GERMANY GMBH.(現 JCM EUROPE GMBH.)代表 取締役社長就任 平成14年5月 JAPAN CASH MACHINE GERMANY GMBH.(現 JCM EUROPE GMBH.)取締 役会長就任(現任) 平成16年12月 JCM AMERICAN CORP.取締役会長就 任(現任) 平成18年4月 海外統轄本部長 平成18年6月 執行役員 平成19年4月 代表取締役社長就任(現任)	(注)3	普通株式 1,458
常務取締役	人事総務企画、 財務経理統轄	牧 比佐史	昭和24年2月26日生	昭和55年3月 日硝電子工業株式会社入社 平成3年12月 当社入社 平成6年4月 経理部長 平成11年4月 管理本部副本部長 平成13年6月 取締役就任 管理本部長 平成18年6月 執行役員 平成19年6月 常務取締役就任(現任) 平成23年10月 人事総務企画本部、財務経理本部 担当 平成25年6月 人事総務企画、財務経理統轄 (現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	JCMグローバル 統轄 JCM AMERICAN CORP. 代表取締役 JCM EUROPE GMBH. 代表取締役	磯井 昭良	昭和35年3月4日生	昭和58年4月 三和通商株式会社入社 昭和60年1月 当社入社 平成6年7月 JCM AMERICAN CORP. 取締役就任 社長代行 平成12年2月 JCM AMERICAN CORP. 代表取締役社 長就任(現任) 平成18年6月 執行役員 平成19年6月 取締役就任 上席執行役員海外統轄本部長 平成19年10月 JCM EUROPE GMBH. 代表取締役就任 (現任) 平成25年4月 JCMグローバル担当 平成25年6月 常務取締役就任(現任) JCMグローバル統轄(現任)	(注)3	普通株式 7
常務取締役	ものづくり2015 プロジェクト統轄	伊澤 輝	昭和24年8月29日生	昭和47年4月 日本エヌ・シー・アール株式会社 (現 日本NCR株式会社)入社 昭和60年4月 当社入社 平成10年4月 開発本部開発1部長 平成18年4月 海外統轄本部副本部長 平成18年6月 執行役員開発本部副本部長 平成19年6月 上席執行役員(現任) 平成19年10月 商品企画部担当 平成20年5月 研究開発本部長 平成20年6月 取締役就任 平成22年9月 J-CASH MACHINE (THAILAND) CO.,LTD. 代表取締役就任(現任) 平成24年5月 製品開発本部長(現任) 技術本部長(現任) 平成25年4月 ものづくり2015プロジェクト担当 平成25年6月 常務取締役就任(現任) ものづくり2015プロジェクト統轄 (現任)	(注)3	普通株式 55
取締役	上席執行役員 生産本部長	鳴尾 英治	昭和25年12月31日生	昭和44年4月 当社入社 平成8年4月 生産統轄部TCS推進部長 平成11年4月 品質本部品質管理部長 平成19年6月 執行役員品質本部長 平成22年6月 上席執行役員生産本部長(現任) 平成23年6月 取締役就任(現任)	(注)3	普通株式 17
取締役	上席執行役員 人事総務企画本部長	高垣 豪	昭和36年9月13日生	昭和60年4月 筒中プラスチック工業株式会社 (現 住友ベークライト株式会社) 入社 平成9年8月 当社入社 平成14年12月 管理本部総務部長 平成19年6月 執行役員管理本部副本部長 平成23年10月 上席執行役員人事総務企画本部長 (現任) 平成25年6月 取締役就任(現任)	(注)3	普通株式 0
取締役	国内販売事業統轄 JCMシステムズ 株式会社代表取締役	吉村 泰彦	昭和36年11月26日生	平成8年8月 サミー工業株式会社(現 サミー 株式会社)入社 平成17年4月 サミー株式会社営業本部副本部長 平成19年4月 同社執行役員 兼 株式会社サミー システムズ代表取締役社長 平成21年5月 JCMシステムズ株式会社取締役 社長 平成22年5月 JCMシステムズ株式会社代表取 締役社長(現任) 平成23年6月 当社上席執行役員 平成25年6月 取締役就任(現任) 国内販売事業統轄(現任)	(注)3	普通株式 -

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		中村 泰三	昭和22年1月11日生	昭和41年6月 一吉証券株式会社(現 いちよし証券株式会社)入社 平成10年1月 ステラケミファ株式会社入社 経理部マネージャー 平成11年6月 同社内部監査室長 平成14年7月 株式会社名豊商事(現 JCMメイホウ株式会社)入社 管理部長 平成16年6月 当社監査役就任(現任) 平成18年6月 ジェーシーエムテクノサポート株式会社監査役就任 JCMメイホウ株式会社監査役就任(現任) 平成21年5月 JCMシステムズ株式会社監査役就任(現任)	(注)4	-
監査役 (常勤)		田村 幸夫	昭和23年4月25日生	昭和48年10月 藤沢薬品工業株式会社(現 アステラス製薬株式会社)入社 平成12年4月 同社監査部次長 平成18年6月 ノーリツ鋼機株式会社入社 同社内部統制プロジェクト担当部長 平成19年9月 当社入社 内部監査室長 平成20年6月 当社監査役就任(現任)	(注)4	普通株式 1
監査役		小泉 英之	昭和28年1月9日生	昭和52年10月 等松青木監査法人(現 有限責任監査法人トーマツ)入所 昭和56年3月 公認会計士登録 昭和62年1月 小泉公認会計士事務所開設 平成7年6月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
監査役		森本 宏	昭和35年7月13日生	昭和62年4月 弁護士登録 北浜法律事務所入所 平成7年6月 当社監査役就任(現任) 平成20年1月 弁護士法人北浜法律事務所代表社員就任(現任)	(注)4	-
計						普通株式 4,248

(注) 1. 代表取締役社長 上東 洋次郎は、取締役会長 上東 宏一郎の実弟であります。

2. 監査役 小泉 英之及び森本 宏は、社外監査役であります。

3. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。

4. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間であります。

5. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員は7名で、取締役生産本部長 鳴尾 英治、取締役人事総務企画本部長 高垣 豪、JCM CHINA CO.,LTD社長 中谷 謙人、JCM GOLD (H.K.)LTD.社長 井内 良洋、製品開発本部長 中尾 晴昭、品質保証本部長 岩井 一郎、グローバルオペレーション部長 長谷川 誠で構成されております。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、会社の継続的な発展のためにはステークホルダーとの信頼関係を形成することが経営の重要な課題のひとつであると認識しており、ステークホルダーとの信頼関係を一層強固なものとするために、社内管理体制の強化、経営の透明性と公正性の確保、事業環境の変化に迅速に対応できる経営体制の構築に努めております。

当社では、取締役会の構成員である取締役を必要最少人数とすることで、参加者の付議内容への正確な判断を促すことにより、迅速な意思決定や適切な経営判断を行うと共に、「経営・監督」と「業務執行」の機能を明確にするため、執行役員制度を導入しております。

コーポレート・ガバナンスの強化のためには、監査役に求められる役割も重要であり、代表取締役と監査役会が定期的な会合を持つことにより、相互に理解を深めることができる仕組みを構築しております。

また、内部統制の強化・拡充につきましては、内部監査グループが内部統制の運用状況を精査するための制度を整備、構築するとともに、業務プロセスの再構築とチェック体制の充実を図ることで、財務報告書の透明性の一層の向上に努めております。

なお、これらのコーポレート・ガバナンス強化のための施策の実施にあたっては、当社単体に留まらず、海外を含む当社グループ全体で取り組んでおります。

さらに、企業の継続的な発展のために最も重要なファクターは人材であります。コーポレート・ガバナンスの強化をはじめ、多くの課題を克服し、さらなる発展に向け、人、組織、企業風土の再活性化が必要不可欠であると認識し、若手社員からベテラン社員に至るまで、優秀な人材の確保・育成を図り、個々の能力を最大限に発揮できる組織作りを目指してまいります。

#### 企業統治の体制

##### (企業統治の体制の概要)

当社では、株主総会において選任された取締役の業務執行を、同じく株主総会において選任された社外監査役2名を含めた監査役が監督する監査役設置会社の体制を採用しており、当報告書提出日現在において、取締役は8名、監査役は4名(うち社外監査役2名)であります。なお、当社は内部監査グループを設置しており、同グループのスタッフ2名が効率的な監査を実施するため監査役及び会計監査人との連絡、情報交換を密に行っております。

##### (企業統治の体制を採用する理由)

当社は監査役設置会社の形態を採用しております。その体制を選択する理由は、特に社外監査役2名について、それぞれ財務、法務の専門家として経済面において当社に依存することなく、中立かつ客観的な立場から経営監視を継続しており、現時点でそれがガバナンス上有効に機能していることから、株主・投資者等の信認は十分確保できていると考えるためであります。

会社の経営上の意思決定、業務の執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の概要は次のとおりであります。



(内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況)

イ．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制について

文書管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報その他の情報を文書（書類、印刷物その他一切の記録（電磁的媒体によるものを含む。））に記録し、保存しております。取締役の職務の執行に関する文書は、取締役又は監査役から閲覧の要請があった場合には、要請を受けた日から2日以内に当社において閲覧が可能な方法で保管しております。

ロ．損失の危険の管理に関する規程その他の体制について

(a) 当社のリスク管理を体系的に定めるリスク管理規程を制定し、リスクカテゴリー毎にリスク管理担当部署を定めるとともに、当社のリスク管理活動を統轄する組織としてリスク管理委員会を設置し、リスク管理担当取締役を同委員会の委員長としております。

(b) リスク管理委員会は、リスク管理担当部署から、定期的にリスクの状況に関する報告を受け、当社のリスク管理全般に関する事項の検討・報告・決定等を行っております。リスク管理担当取締役は、リスク管理上の情報を取締役会及び監査役会に報告し、必要に応じて提言を行っております。

(c) リスク管理担当取締役は、期毎にリスク管理活動計画を策定し、前記のリスク管理活動の状況とともに監査役会に報告しております。

(d) リスク管理委員会は、リスク管理の機能状況の検証を行うとともに、新たなリスクの判明等の状況に応じてリスク管理体制等の見直しを行っております。

ハ．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制について

(a) 業務規程、決裁権限規程及びその他の規程により、取締役会、常務会、監査役会等の役割、使用人の職位・職務分担・職務権限、役員・使用人の決裁権限等を明確にし、業務の効率性を高めております。

(b) 取締役の人数の少数化や、取締役会の機能強化に努め、さらに執行役員への権限の委譲や組織のスリム化により、経営判断の一層の迅速化、公正化を図っております。

ニ．取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制について

(a) 役員・使用人が法令及び諸規則を遵守した行動をとるための行動規範を定めております。

(b) コンプライアンス体制に関する規程（コンプライアンス規程）を制定し、コンプライアンスを実現させるための具体的なプログラムとして当社及び当社の関係会社（当社の子会社及び関連会社）を対象とするコンプライアンス・プログラムを定めております。また、コンプライアンス・プログラムが適正に実践されていることを監視するため、コンプライアンス委員会を設け、当社及び関係会社のコンプライアンスに対する取組みを横断的に統轄することとし、併せて当社のコンプライアンス担当取締役をコンプライアンス委員会の委員長としております。

(c) 法令違反行為、不正行為及び法令違反の疑義がある行為等について当社使用人が直接情報提供を行う手段として、当社内部に社内相談室及び投書箱を設置するとともに、外部専門家を窓口とする社外相談室を設置しております。社内相談室はコンプライアンス責任者が担当し、投書箱は常勤監査役の所管としております。通報を受けた場合は、通報内容を調査するとともに、再発防止策をとらなければならないものとしております。

(d) 当社の役員・使用人に対するコンプライアンス教育を充実させるとともに、当社の役員・使用人がコンプライアンスを実践するための手引きとして、コンプライアンス・マニュアル及び同細則を定めております。

(e) 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力へは断固とした姿勢で対応し、決して妥協しないことを上記行為規範において明確にするとともに、関係会社を含めた役員・使用人へのコンプライアンス教育を行って遵法意識の醸成に努めております。

また、人事総務企画本部内に不当要求防止責任者を設置するとともに、警察当局・弁護士等の外部専門機関と十分に連携を図り、反社会的勢力からの不当要求に適時適切に対応できる体制を構築しております。

ホ．当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正性を確保するための体制について

(a) グループ会社管理規程により、当社によるグループ会社（当社の子会社及び関連会社）管理の適正化を図ることとし、当社におけるグループ会社管理担当部門を、その内容に応じて人事総務担当部門又は経理担当部門としております。

(b) 当社及び当社の関係会社を対象とするコンプライアンス・プログラムを制定し、併せてコンプライアンス・プログラムが適正に実践されていることを監視するため、当社代表取締役、コンプライアンス担当取締役、当社及び当社の関係会社のコンプライアンス責任者等で構成されるコンプライアンス委員会を設置することにより、当社及び関係会社間での内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・報告等が効率的に行われるシステムを構築しております。

へ．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項について  
当社では、監査役室を設置し、監査役の職務の補助に努めております。また、必要に応じ人事総務企画本部  
内部監査グループに所属する使用人に対しても監査業務に必要な事項を命令することができることとしており  
ます。

ト．前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項について

監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して取締役の指揮命令を受けないことと  
し、当該使用人の人事異動、人事考課及び懲戒処分は監査役会の意見を尊重するものとしております。

チ．取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制について

取締役は、監査役に対する報告に関する規程に従い、監査役に対して 常務会で決議された事項、 会社に  
著しい損害を及ぼすおそれのある事項、 毎月の経営状況として重要な事項、 内部監査状況及びリスク管理  
に関する重要な事項、 重大な法令・定款違反、 内部通報制度に関する通報状況及びその内容、 その他コ  
ンプライアンス上重要な事項を報告しなければならないものとしております。使用人は、監査役に対する報告  
に関する規程に従い、監査役に対して、上記、及びの事項を報告できるものとしております。

リ．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制について

(a) 監査役は、平素より取締役及び使用人との意思疎通を図っております。

(b) 監査役と代表取締役は、相互に意思疎通を図るとともに、会社が対処すべき課題、会社を取巻くリスク、  
監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換をするため、定期的に会合をもつも  
のとしております。

(リスク管理体制の整備の状況)

当社は、当社及びグループ会社において発生が予想されるリスクを網羅的に規定した「リスク管理規程」に基  
づき、定期的にリスク管理連絡会及びリスク管理委員会を開催し、リスクを適切に認識・把握できる体制を整備  
しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社では、国内外の関係会社を含めた業務執行の監査と業務効率化、適正化に向けた助言を行うことを目的  
に、内部監査グループを設置しております。現在スタッフは2名であり、監査役及び会計監査人との連絡、情報  
交換を密にし、効果的・効率的な監査を行っております。

監査役監査につきましては、常勤監査役2名が日常監査を担っており、監査役室のスタッフ1名がその補助を  
行っております。また、常勤監査役は、取締役会、常務会及び月次決算会議その他の主要会議に出席し、取締役  
の重要な意思決定の過程や業務の執行状況の把握に努めるとともに、監査役会で定めた業務分担に従い、各事業  
所及び海外を含む子会社の往査を行っております。また、子会社についても常勤監査役が取締役会その他重要な  
会議に出席するとともに、海外子会社を含めあらかじめ定められた分担に従い、1～2年に1回の割合で往査を  
行っております。一方、社外監査役は、常勤監査役から随時日常監査の結果の報告を受けるとともに、取締役会  
及び月次決算会議等の重要な会議に出席し、取締役の職務執行状況を監査する他、その専門知識（社外監査役の  
うち1名は公認会計士、もう1名は弁護士）を活かし、大所高所から会社の経営を客観的にチェックすることと  
しております。

なお、常勤監査役 中村泰三氏は、ステラケミファ株式会社の経理部マネージャー、JCMメイホウ株式会社  
の管理部長を歴任するなど、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。また、社外監査役 小  
泉英之氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

会計監査の状況

当社は会計監査を担当する監査法人として、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、当該契約に基づき  
会計監査を受けているほか、会計上の問題点等について適宜アドバイスを受けております。同監査法人及び当社  
の会計監査を行った公認会計士と当社との間には特別の利害関係はありません。

当社の会計監査を行った公認会計士の氏名等は以下のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定有限責任 社員・ 業務執行社員	小 西 幹 男	新日本有限責任監査法人	7 年
	佐々木 健 次		6 年

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 8 名、その他 4 名

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役 小泉英之氏は、公認会計士（小泉公認会計士事務所代表）であります。当社と同事務所との間には特別な関係はありません。また、同氏は、株式会社千趣会の社外監査役を兼務しておりますが、当社と同社との間には特別な関係はありません。

社外監査役 森本 宏氏は、弁護士（弁護士法人北浜法律事務所代表社員）であり、当社は同法人と顧問契約を締結しております。また、同氏は、株式会社千趣会の社外監査役を兼務しておりますが、当社と同社との間には特別な関係はありません。

当社は社外取締役を選任していません。当社の社外監査役には経営の適法性にとどまらず、その効率性や妥当性の観点からも意見を伺っており、取締役会における議決権はないものの、全取締役はそれらの意見を最大限に尊重しながら経営判断等を行っていることから、外部からの経営監視機能は十分に機能していると考えます。具体的な体制、実行状況については、社外監査役自身による取締役会等重要な会議への出席のみならず、常勤監査役の社内の主要会議への出席とその内容報告を通じて、経営監視機能の充実・強化に努めております。

なお、当社は経営監視機能について、経営陣から不当な圧力が及ぶことなく、中立かつ客観的な視点を確保することが必要であると考えております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関して特段の定めはありませんが、当社は、社外監査役は会社に経済的に依存しないことで、その独立性の維持・継続が図られるものと考えております。また、経営陣と一般株主との利害が対立する場面において、一般株主保護の役割を担いつつ、その機能を行使することが期待されていると考えます。

#### 役員報酬等

##### イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	
取締役	165,131	142,131	23,000	8
監査役 (社外監査役を除く)	34,200	34,200	-	2
社外役員	12,540	12,540	-	2

##### ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、取締役の賞与支給額を業績に応じて変動させております。さらに平成19年5月22日開催の取締役会において役員退職慰労金制度を廃止し、取締役の報酬体系を、経営陣としての役割に応じて支給される毎月の報酬と、業績に応じて支給額が変動する賞与の二種類で構成することにした結果、これまでより在任中の実績が総報酬額に反映されやすくなり、業績との連動性は高くなったものと考えております。

#### 株式の保有状況

##### イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

(a) 銘柄数：13

(b) 貸借対照表計上額の合計額：576,693千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）	保有目的
上新電機(株)	450,000	368,100	取引関係等の維持・向上のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	163,900	43,269	取引関係等の維持・向上のため
(株)ムサン	17,000	20,927	取引関係等の維持・向上のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	60,000	8,100	取引関係等の維持・向上のため
新光商事(株)	10,000	7,220	取引関係等の維持・向上のため
(株)りそなホールディングス	14,425	5,495	取引関係等の維持・向上のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,200	5,990	取引関係等の維持・向上のため
フィデック(株)	270	3,121	取引関係等の維持・向上のため

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）	保有目的
上新電機(株)	450,000	404,100	取引関係等の維持・向上のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	163,900	72,607	取引関係等の維持・向上のため
(株)ムサン	17,000	19,465	取引関係等の維持・向上のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	60,000	11,940	取引関係等の維持・向上のため
(株)ダイナムジャパンホールディングス	64,187	10,502	取引関係等の維持・向上のため
新光商事(株)	10,000	8,860	取引関係等の維持・向上のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,200	8,305	取引関係等の維持・向上のため
(株)りそなホールディングス	14,425	7,039	取引関係等の維持・向上のため
アクリーティブ(株)	270	4,776	取引関係等の維持・向上のため

取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。解任決議の要件については、特に定款に定めておりません。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な資本政策を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策の実行を可能にするため、自己の株式の取得等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めております。

#### 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役及び監査役（取締役又は監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

### (2) 【監査報酬の内容等】

#### 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	49,350	-	49,350	-
連結子会社	-	-	-	-
計	49,350	-	49,350	-

#### 【その他重要な報酬の内容】

##### （前連結会計年度）

当社の連結子会社であるJCM GOLD(H.K.)LTD.、JCM AMERICAN CORP.並びにJCM EUROPE GMBH.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているアーンスト&ヤング（ERNST & YOUNG）に対して、前連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬として、24,678千円を支払っております。

##### （当連結会計年度）

当社の連結子会社であるJCM GOLD(H.K.)LTD.、JCM AMERICAN CORP.並びにJCM EUROPE GMBH.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているアーンスト&ヤング（ERNST & YOUNG）に対して、当連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬として、26,782千円を支払っております。

#### 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

#### 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、特別な方針等は定めておりませんが、監査法人から提示を受けた監査計画及び監査報酬見積額につき、両方で協議し、当社の事業規模、業務の特性等の要素を勘案の上、その具体的内容（監査日程・監査項目・報酬金額等）の妥当性を吟味し、監査役会の同意を得た上で、所定の手続きを経て決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1)当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2)当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表および事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には会計基準等の内容を適切に把握し、財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3 7,237,978	3 7,810,961
受取手形及び売掛金	4 5,619,524	4 5,071,045
有価証券	134,691	135,395
商品及び製品	4,154,458	5,907,926
仕掛品	743,172	826,780
原材料及び貯蔵品	3,226,092	2,336,574
繰延税金資産	581,441	597,608
その他の流動資産	348,546	362,341
貸倒引当金	95,152	151,032
流動資産合計	21,950,753	22,897,599
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	2,214,196	2,147,366
機械装置及び運搬具（純額）	26,175	37,049
土地	1,726,938	1,743,427
リース資産（純額）	282,317	223,940
その他（純額）	689,640	679,450
有形固定資産合計	1 4,939,269	1 4,831,234
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	140,118	71,377
その他の無形固定資産	8,074	6,916
無形固定資産合計	148,193	78,294
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	882,889	833,126
長期貸付金	58,563	78,165
繰延税金資産	26,085	11,643
その他の投資等	962,020	781,560
貸倒引当金	257,142	62,369
投資その他の資産合計	1,672,416	1,642,125
固定資産合計	6,759,878	6,551,654
資産合計	28,710,632	29,449,254

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	<sup>3</sup> 3,561,926	<sup>3</sup> 2,515,882
リース債務	184,469	183,129
未払法人税等	60,897	74,075
賞与引当金	277,727	287,443
役員賞与引当金	26,000	30,300
事業構造改善引当金	150,000	-
その他の流動負債	1,154,915	1,418,667
流動負債合計	5,415,936	4,509,497
<b>固定負債</b>		
リース債務	444,814	282,743
繰延税金負債	48,316	91,319
退職給付引当金	23,156	-
負ののれん	16,024	-
その他の固定負債	297,742	271,081
固定負債合計	830,053	645,143
負債合計	6,245,989	5,154,641
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,216,945	2,216,945
資本剰余金	2,068,959	2,068,964
利益剰余金	23,560,313	24,614,648
自己株式	2,325,837	2,325,927
株主資本合計	25,520,380	26,574,630
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	16,529	76,095
繰延ヘッジ損益	-	2,729
為替換算調整勘定	3,072,267	2,358,842
その他の包括利益累計額合計	3,055,738	2,280,018
純資産合計	22,464,642	24,294,612
負債純資産合計	28,710,632	29,449,254

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
売上高		22,129,470		23,441,214
売上原価	2, 6	12,983,129	2, 6	14,512,800
売上総利益		9,146,341		8,928,414
割賦販売未実現利益戻入額		59,078		60,422
割賦販売未実現利益繰入額		65,837		31,115
差引売上総利益		9,139,582		8,957,721
販売費及び一般管理費	1, 2	8,087,335	1, 2	7,627,655
営業利益		1,052,246		1,330,065
営業外収益				
受取利息		35,108		32,455
受取配当金		13,312		13,295
為替差益		-		418,202
負ののれん償却額		192,294		16,024
受取補償金		58,942		-
その他		52,552		64,524
営業外収益合計		352,210		544,502
営業外費用				
支払利息		24,453		20,392
為替差損		113,765		-
持分法による投資損失		-		1,939
その他		7,111		87
営業外費用合計		145,330		22,419
経常利益		1,259,126		1,852,148
特別利益				
固定資産売却益		3 398		3 1,759
投資有価証券売却益		-		15,000
特別利益合計		398		16,759
特別損失				
固定資産売却損		4 87		4 4,321
固定資産除却損		5 15,975		5 1,523
投資有価証券評価損		2,368		-
事業構造改善費用		7 150,000		-
特別損失合計		168,432		5,845
税金等調整前当期純利益		1,091,093		1,863,062
法人税、住民税及び事業税		210,861		402,849
法人税等調整額		101,365		28,153
法人税等合計		312,226		431,002
当期純利益		778,866		1,432,059

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益	778,866	1,432,059
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,799	59,566
繰延ヘッジ損益	397	2,729
為替換算調整勘定	366,902	710,833
持分法適用会社に対する持分相当額	-	2,591
その他の包括利益合計	362,501	775,719
包括利益	416,365	2,207,779
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	416,365	2,207,779
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	2,216,945	2,216,945
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,216,945	2,216,945
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	2,069,003	2,068,959
当期変動額		
自己株式の処分	43	4
当期変動額合計	43	4
当期末残高	2,068,959	2,068,964
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	23,159,174	23,560,313
当期変動額		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	778,866	1,432,059
当期変動額合計	401,138	1,054,334
当期末残高	23,560,313	24,614,648
<b>自己株式</b>		
当期首残高	2,325,734	2,325,837
当期変動額		
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	153	43
当期変動額合計	103	89
当期末残高	2,325,837	2,325,927
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	25,119,389	25,520,380
当期変動額		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	778,866	1,432,059
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	109	47
当期変動額合計	400,991	1,054,249
当期末残高	25,520,380	26,574,630

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	11,729	16,529
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,799	59,566
当期変動額合計	4,799	59,566
当期末残高	16,529	76,095
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	397	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	397	2,729
当期変動額合計	397	2,729
当期末残高	-	2,729
為替換算調整勘定		
当期首残高	2,705,364	3,072,267
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	366,902	713,424
当期変動額合計	366,902	713,424
当期末残高	3,072,267	2,358,842
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,693,236	3,055,738
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	362,501	775,719
当期変動額合計	362,501	775,719
当期末残高	3,055,738	2,280,018
純資産合計		
当期首残高	22,426,152	22,464,642
当期変動額		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	778,866	1,432,059
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	109	47
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	362,501	775,719
当期変動額合計	38,490	1,829,969
当期末残高	22,464,642	24,294,612

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自	平成23年4月1日	(自	平成24年4月1日
	至	平成24年3月31日)	至	平成25年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>				
税金等調整前当期純利益		1,091,093		1,863,062
減価償却費		593,418		563,346
負ののれん償却額		192,294		16,024
事業構造改善引当金の増減額(は減少)		150,000		150,000
引当金の増減額(は減少)		42,629		150,917
受取利息及び受取配当金		48,420		45,751
支払利息		24,453		20,392
為替差損益(は益)		9,191		322,364
投資有価証券売却損益(は益)		-		15,000
有形固定資産除売却損益(は益)		15,665		4,085
投資有価証券評価損益(は益)		2,368		-
持分法による投資損益(は益)		-		1,939
売上債権の増減額(は増加)		1,267,516		879,978
たな卸資産の増減額(は増加)		1,992,758		335,906
仕入債務の増減額(は減少)		1,092,833		1,357,052
未収消費税等の増減額(は増加)		122,708		23,137
その他の資産・負債の増減額		18,839		274,977
小計		393,852		1,237,903
利息及び配当金の受取額		47,460		45,243
利息の支払額		24,453		20,392
法人税等の支払額		359,083		343,927
営業活動によるキャッシュ・フロー		729,928		918,826
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>				
有形固定資産の取得による支出		470,125		285,112
有形固定資産の売却による収入		3,953		25,602
無形固定資産の取得による支出		6,453		49,929
無形固定資産の売却による収入		-		973
有価証券の純増減額(は増加)		2,657		118,226
投資有価証券の取得による支出		1,686		4,748
投資有価証券の売却による収入		-		96,465
貸付けによる支出		59,987		67,951
貸付金の回収による収入		889		50
その他		100		-
投資活動によるキャッシュ・フロー		535,967		166,426

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の増加による収入	228,706	24,564
リース債務の返済による支出	162,965	188,206
自己株式の取得による支出	256	132
自己株式の売却による収入	109	47
配当金の支払額	383,568	374,137
財務活動によるキャッシュ・フロー	317,975	537,863
現金及び現金同等物に係る換算差額	57,898	259,421
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,641,770	473,957
現金及び現金同等物の期首残高	8,150,518	6,508,748
現金及び現金同等物の期末残高	6,508,748	6,982,706

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 8社

連結子会社名

JCMシステムズ株式会社

JCMメイホウ株式会社

JCM AMERICAN CORP.

JCM EUROPE GMBH.

JCM GOLD(H.K.)LTD.

SHAFTY CO.,LTD.

JCM CHINA CO.,LTD.

J-CASH MACHINE(THAILAND)CO.,LTD.

### 2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 当連結会計年度より、株式の取得によりNanoptix Inc.を新たに持分法適用の範囲に含めております。
- (2) 持分法適用会社の決算日は、連結決算日と異なるため、持分法適用会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外連結子会社の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表作成に当たっては同決算日現在の財務諸表を使用しており、1月1日から3月31日までの期間に発生した重要な取引については連結上必要な調整を行っております。また国内連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

...償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

...決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

デリバティブ

...時価法

たな卸資産

当社及び国内連結子会社

...先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

在外連結子会社

...JCM AMERICAN CORP.

先入先出法による低価法

...JCM EUROPE GMBH.、JCM GOLD(H.K.)LTD.

移動平均法による低価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社

…定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）等については、定額法を採用しております。

在外連結子会社

…主として定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 4～12年

（会計方針の変更）

（固定資産の減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ5,486千円増加しております。

無形固定資産（リース資産を除く）

…定額法

なお、耐用年数については、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。また市場販売目的のソフトウェアについては販売可能な見込み期間（3年）に基づいております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

…当社及び国内連結子会社は債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。在外連結子会社は主として個別に回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

…当社及び国内連結子会社は、従業員への賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。在外連結子会社は、賞与引当金は計上しておりません。

役員賞与引当金

…当社及び国内連結子会社は、役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。在外連結子会社は、役員賞与引当金は計上しておりません。

退職給付引当金

…当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。在外連結子会社は、退職給付引当金は計上しておりません。

なお、数理計算上の差異は発生時に一括処理することとしております。

事業構造改善引当金

…事業構造改革に伴い、今後発生が見込まれる費用について合理的な見積額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

割賦販売の計上基準

商品引渡時に割賦販売に係る債権総額を売上高として計上し、未回収の売上債権に対応する未実現利益は割賦販売未実現利益として繰延処理しております。

(5)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は為替差損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約取引について振当処理の要件を満たす場合は、振当処理を行うこととしております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引等

ヘッジ対象：外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

ヘッジ方針

社内管理規定に基づき外貨建取引のうち、当社及び連結子会社に為替変動リスクが帰属する場合は、そのリスクヘッジのため、実需原則に基づき、為替予約取引等を行うものとしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

(7)のれん及び負ののれんの償却方法及び償却期間

のれん及び負ののれんは、その発生原因に基づき、その効果の及ぶ期間（3年～5年）にわたり定額法により償却を行っております。

(8)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税等の会計処理は税抜方式によって処理しております。

（未適用の会計基準等）

- ・ 「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・ 「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

概要

財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法並びに開示の拡充等について改正されたものであります。また、退職給付見込額の期間帰属方法の改正について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

適用予定日

平成26年3月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

当会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において財務諸表に与える影響額は、現在評価中であります。

( 連結貸借対照表関係 )

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	6,525,963千円	6,842,787千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の債務に対し債務保証を行っております。

債務保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
仕入債務	544,045千円	400,990千円
リース債務	-	103,010

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
現金及び預金	20,000千円	20,000千円

上記に対応する債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
支払手形及び買掛金	1,609千円	23千円

4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	215,086千円	123,340千円

( 連結損益計算書関係 )

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
給与・賞与	2,590,308千円	2,660,505千円
貸倒引当金繰入額	20,840	58,649
賞与引当金繰入額	192,038	190,685
役員賞与引当金繰入額	26,000	30,300
退職給付費用	158,443	125,025

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	1,333,071千円	1,281,277千円

3 固定資産売却益の主な内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	1,613千円
機械装置及び運搬具	398	-
その他	-	146

4 固定資産売却損の主な内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	860千円
土地	-	3,460
その他	87	1

5 固定資産除却損の主な内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	380千円
機械装置及び運搬具	-	136
ソフトウェア	1,080	-
その他	14,871	1,006

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	58,478千円	100,835千円

7 事業構造改善費用は、グループ内取引の見直しに伴う事業構造改革の一環として実施する人員適正化施策等に伴い発生する費用であります。

(連結包括利益計算書関係)  
その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	5,349千円	81,556千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	5,349	81,556
税効果額	550	21,989
その他有価証券評価差額金	4,799	59,566
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	16	4,401
組替調整額	686	-
税効果調整前	669	4,401
税効果額	271	1,672
繰延ヘッジ損益	397	2,729
為替換算調整勘定：		
当期発生額	366,902	710,833
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	-	2,591
その他の包括利益合計	362,501	775,719

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	29,662	-	-	29,662
合計	29,662	-	-	29,662
自己株式				
普通株式	2,682	0	0	2,682
合計	2,682	0	0	2,682

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによるものであり、減少0千株は、単元未満株式の買増請求によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月3日取締役会	普通株式	188,864	7	平成23年3月31日	平成23年6月13日
平成23年11月2日取締役会	普通株式	188,863	7	平成23年9月30日	平成23年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月4日取締役会	普通株式	188,863	利益剰余金	7	平成24年3月31日	平成24年6月12日

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	29,662	-	-	29,662
合計	29,662	-	-	29,662
自己株式				
普通株式	2,682	0	0	2,682
合計	2,682	0	0	2,682

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによるものであり、減少0千株は、単元未満株式の買増請求によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成24年6月4日 取締役会	普通株式	188,863	7	平成24年3月31日	平成24年6月12日
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	188,862	7	平成24年9月30日	平成24年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月3日 取締役会	普通株式	296,783	利益剰余金	11	平成25年3月31日	平成25年6月11日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
現金及び預金勘定	7,237,978千円	7,810,961千円
預入期間が3か月を超える定期預金	729,230	828,254
現金及び現金同等物	6,508,748	6,982,706

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主としてアミューズメント事業用ゲーム機(「その他」)であります。

(イ)無形固定資産

該当事項はありません。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
「その他」(工具、器具及び備品)	9,910	8,396	1,514

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
「その他」(工具、器具及び備品)	9,910	9,910	-

(2)未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1,514	-
1年超	-	-
合計	1,514	-

(注)なお、取得価額相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占めるその割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3)支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	1,651	1,514
減価償却費相当額	1,651	1,514

(4)減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

## 2. オペレーティング・リース取引 未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	9,021	10,857
1年超	10,648	22,061
合計	19,670	32,918

### (金融商品関係)

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

##### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、現在、借入金等による資金調達は行っておらず、余剰資金については、主に流動性が高く、安全性の高い金融商品に限定して、運用しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。有価証券及び投資有価証券については、満期保有目的の債券及び株式を保有しております。そのうち、上場株式については、四半期ごとに時価の把握を行っており、それ以外については、合理的に算定された価額の把握を行っております。

なお、デリバティブは内部管理規定に従い、実需の範囲で行うこととしております。

##### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されており、市場の動向を注視し必要に応じて、先物為替予約を利用してヘッジすることとしております。

有価証券及び投資有価証券は、主に売買目的有価証券、満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、取引先企業等に対し長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されており、市場の動向を注視し必要に応じて、先物為替予約を利用してヘッジすることとしております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に資金調達を目的としたものであり、契約期間は最長で5年であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (6)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

##### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

###### 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、与信管理担当部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の社内規程に準じて、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、当社グループ方針に従い、格付の高い債券のみを投資対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引については、取引先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

###### 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2.金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	7,237,978	7,237,978	-
(2)受取手形及び売掛金	5,619,524	5,574,901	44,623
(3)有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	236,047	236,047	-
その他有価証券	463,024	463,024	-
資産計	13,556,574	13,511,951	44,623
(4)支払手形及び買掛金	3,561,926	3,561,926	-
負債計	3,561,926	3,561,926	-

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	7,810,961	7,810,961	-
(2)受取手形及び売掛金	5,071,045	5,036,314	34,730
(3)有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	138,858	138,858	-
その他有価証券	548,485	548,485	-
資産計	13,569,349	13,534,618	34,730
(4)支払手形及び買掛金	2,515,882	2,515,882	-
負債計	2,515,882	2,515,882	-
(5)デリバティブ取引(*)	8,584	8,584	-

(\*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注)1.金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式及び債券共に取引所の価格によっております。

(4)支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5)デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	318,509	281,178

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	5,857,500	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,176,060	443,463	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	134,691	101,355	-	-
合計	11,168,252	544,819	-	-

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	6,572,616	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,748,857	298,787	23,400	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	135,395	3,463	-	-
合計	11,456,868	302,250	23,400	-

( 有価証券関係 )

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 ( 平成24年 3月31日 )

	種類	連結貸借対照表計上額 ( 千円 )	時価 ( 千円 )	差額 ( 千円 )
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	236,047	236,047	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		236,047	236,047	-

当連結会計年度 ( 平成25年 3月31日 )

	種類	連結貸借対照表計上額 ( 千円 )	時価 ( 千円 )	差額 ( 千円 )
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	138,858	138,858	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		138,858	138,858	-

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	89,428	64,981	24,446
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	89,428	64,981	24,446
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	373,595	384,266	10,670
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	373,595	384,266	10,670
合計		463,024	449,248	13,776

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	548,485	455,460	93,024
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	548,485	455,460	93,024
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		548,485	455,460	93,024

（注）非上場株式（前連結貸借対照表計上額 318,509千円、当連結貸借対照表計上額 281,178千円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	120,000	15,000	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	120,000	15,000	-

4. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

その他有価証券の株式について2,368千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建 ユーロ	売掛金	121,767	-	4,182
合計			121,767	-	4,182

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 上記の為替予約取引は、連結会社間取引をヘッジ対象として個別財務諸表上はヘッジ会計が適用されておりますが、連結財務諸表上は当該連結会社間取引が消去されるため、ヘッジ会計が適用されておりません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建 ユーロ	売掛金	128,147	-	4,401
合計			128,147	-	4,401

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、確定給付型企業年金制度及び確定拠出型企業年金制度を採用しております。なお、在外連結子会社においては退職給付制度はありません。

また、当社及び一部の国内連結子会社は総合設立型の厚生年金基金制度である関西文紙機器厚生年金基金に加入しております。なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)
年金資産の額	34,621,057千円	33,068,153千円
年金財政計算上の給付債務の額	53,412,185	52,550,298
差引額	18,791,128	19,482,145

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度	5.63% (平成23年3月31日現在)
当連結会計年度	5.60% (平成24年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度7,943,116千円、当連結会計年度7,545,138千円)及び繰越不足(前連結会計年度10,848,012千円、当連結会計年度11,937,007千円)であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年の元利均等償却であります。

なお、特別掛金の額はあらかじめ定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与・賞与標準給与の額に乘じ算定するため、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

2. 退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務	797,687	866,832
(2) 年金資産	891,907	1,031,273
(3) 連結貸借対照表計上額純額	94,220	164,441
(4) 前払年金費用	117,376	164,441
(5) 退職給付引当金	23,156	-

3. 退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
(1) 勤務費用	61,928	61,193
(2) 利息費用	14,912	15,888
(3) 期待運用収益(減算)	17,050	17,838
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	8,301	65,039
(5) 退職給付費用	51,488	5,795
(6) 確定拠出年金制度への拠出額	22,844	22,276
計	74,333	16,480

(注) 総合設立型の厚生年金基金に係るものは含まれておりません。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法  
期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.0%	1.6%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.0%	1.6%

(4) 数理計算上の差異の処理年数  
発生時一括費用処理

5. 総合設立型の厚生年金基金に関する事項

総合設立型の厚生年金基金については、要拠出額を退職給付費用として処理しております。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
退職給付費用(基金への会社負担分拠出額)	100,560	101,441

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
未実現利益	13,458千円	18,685千円
役員退職慰労未払金	69,069	69,069
たな卸資産評価損	246,892	268,893
賞与引当金	109,777	117,440
ゴルフ会員権評価損	21,717	21,717
一括償却資産損金算入限度超過額	17,221	4,133
貸倒引当金損金算入限度超過額	94,605	77,812
販売費及び一般管理費否認額	113,643	129,240
無形固定資産否認額	198,822	170,297
投資有価証券評価損	8,528	8,528
退職給付引当金	9,123	9,123
繰越欠損金	661,185	439,234
関係会社株式	338,684	338,684
事業構造改善引当金	57,000	-
その他	110,184	138,826
小計	2,069,916	1,811,690
評価性引当金	1,404,991	1,134,310
繰延税金資産合計	664,924	677,380
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,235	27,309
子会社留保利益	26,391	28,166
資産除去債務	2,285	2,109
前払年金費用	44,603	62,487
その他	31,197	39,374
繰延税金負債合計	105,713	159,448
繰延税金資産の純額	559,211	517,932

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	581,441千円	597,608千円
固定資産 - 繰延税金資産	26,085	11,643
固定負債 - 繰延税金負債	48,316	91,319

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	38.0%
(調整)		
税効果未認識未実現利益	4.5	0.2
海外連結子会社等との税率差	5.0	2.7
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5	1.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	4.8	6.6
子会社からの受取配当金消去	4.2	4.7
負ののれん償却	7.2	0.3
評価性引当金	2.3	13.0
住民税均等割	1.9	1.1
移転価格税制関連	1.5	-
税額控除	1.4	0.5
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.8	-
その他	0.5	1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.6	23.1

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に金銭関連機器等を生産・販売しており、国内においては、当社及び国内連結子会社が、海外においては海外連結子会社が、グループ内で機能・業務を担当しております。連結子会社はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を行っております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎としたセグメントから構成されており、「日本金銭機械」、「遊技場向機器事業」、「北米地域」、「欧州地域」及び「アジア地域」を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、棚卸資産の評価基準を除き、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げ前の価額で評価しております。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

(固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度のセグメント利益が、「日本金銭機械」で868千円、「遊技場向機器事業」で4,617千円それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	日本金銭機械	遊技場向機器事業	北米地域	欧州地域	アジア地域	
売上高						
外部顧客への売上高	1,806,169	10,389,546	5,646,549	4,012,206	274,998	22,129,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,388,897	225,022	68,591	16,362	7,233,138	15,932,012
計	10,195,066	10,614,568	5,715,141	4,028,569	7,508,137	38,061,483
セグメント利益	356,402	140,811	133,086	341,884	71,410	1,043,594
セグメント資産	17,869,146	6,955,721	3,655,022	2,759,488	4,197,436	35,436,815
セグメント負債	2,907,896	4,797,553	1,031,560	675,350	2,694,237	12,106,598
その他の項目						
減価償却費	383,783	166,987	30,029	11,874	6,886	599,560
受取利息	9,795	2,301	6,142	25,850	81	44,171
支払利息	-	24,366	-	-	86	24,453
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	209,202	205,506	13,992	9,011	17,776	455,489

（注）減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、それぞれ長期前払費用の償却額及び増加額が含まれております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	日本金銭機械	遊技場向機器事業	北米地域	欧州地域	アジア地域	
売上高						
外部顧客への売上高	2,487,762	9,291,274	7,616,609	3,804,306	241,261	23,441,214
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,300,137	206,904	35,222	39,719	8,871,562	16,453,546
計	9,787,900	9,498,179	7,651,831	3,844,025	9,112,823	39,894,761
セグメント利益	1,135,215	71,053	505,940	228,085	144,200	2,084,495
セグメント資産	17,882,256	5,353,404	4,555,899	3,652,690	4,271,105	35,715,356
セグメント負債	2,442,509	3,241,582	1,222,078	1,259,082	2,503,578	10,668,832
その他の項目						
減価償却費	344,714	170,873	31,338	10,781	8,027	565,735
受取利息	20,669	1,800	7,368	22,297	248	52,385
支払利息	-	20,156	-	-	20,165	40,322
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	188,526	109,229	31,922	13,021	9,524	352,223

（注）減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、それぞれ長期前払費用の償却額及び増加額が含まれております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,043,594	2,084,495
未実現利益の消去	146,029	8,239
負ののれん償却額	192,294	16,024
受取配当金の消去	126,883	265,133
全社収益	14,062	13,856
その他セグメント間取引消去	9,971	11,143
連結財務諸表の経常利益	1,259,126	1,852,148

（注）全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない営業外損益であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	35,436,815	35,715,356
セグメント間消去	7,951,723	7,694,583
全社資産	1,225,541	1,428,480
連結財務諸表の資産合計	28,710,632	29,449,254

（注）全社資産は、主に当社及び連結子会社の余剰運用資金及び長期投資資金であります。

（単位：千円）

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,106,598	10,668,832
セグメント間消去	5,876,633	5,514,190
負ののれん	16,024	-
連結財務諸表の負債合計	6,245,989	5,154,641

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	599,560	565,735	6,141	2,388	593,418	563,346
受取利息	44,171	52,385	9,063	19,929	35,108	32,455
支払利息	24,453	40,322	-	19,929	24,453	20,392
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	455,489	352,223	6,285	4,524	449,203	347,699

**【関連情報】**

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	北米	欧州	その他の地域	合計
12,196,016	4,748,671	3,949,357	1,235,425	22,129,470

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	北米	欧州	その他の地域	合計
4,055,884	509,395	15,939	366,202	4,947,421

## 3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	北米	欧州	その他の地域	合計
11,770,650	6,864,124	3,764,089	1,042,349	23,441,214

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	北米	欧州	その他の地域	合計
3,842,557	566,217	18,007	414,512	4,841,294

## 3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。なお、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	日本金銭 機械	遊技場向 機器事業	北米地域	欧州地域	アジア地域	合計
当期償却額	-	192,294	-	-	-	192,294
当期末残高	-	16,024	-	-	-	16,024

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。なお、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	日本金銭 機械	遊技場向 機器事業	北米地域	欧州地域	アジア地域	合計
当期償却額	-	16,024	-	-	-	16,024
当期末残高	-	-	-	-	-	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
1株当たり純資産額	832円63銭	1株当たり純資産額	900円46銭
1株当たり当期純利益金額	28円87銭	1株当たり当期純利益金額	53円08銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益(千円)	778,866	1,432,059
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	778,866	1,432,059
期中平均株式数(株)	26,980,482	26,980,334

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	184,469	183,129	3.7	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	444,814	282,743	3.3	平成26年~29年
合計	629,283	465,872	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末リース債務残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	182,174	71,647	27,592	1,329

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	6,064,573	12,239,606	18,481,773	23,441,214
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	520,635	783,391	1,498,214	1,863,062
四半期(当期)純利益金額 (千円)	354,011	549,605	1,190,120	1,432,059
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	13.12	20.37	44.11	53.08

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	13.12	7.25	23.74	8.97

決算日後の状況

特記事項はありません。

2【財務諸表等】  
 (1)【財務諸表】  
 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,577,681	5,003,788
受取手形	<sup>4</sup> 228,567	<sup>4</sup> 215,270
売掛金	<sup>1</sup> 3,903,423	<sup>1</sup> 2,952,925
商品及び製品	541,463	758,617
仕掛品	691,078	637,517
原材料及び貯蔵品	1,043,493	665,604
前払費用	54,371	57,395
未収入金	<sup>1</sup> 194,544	<sup>1</sup> 157,691
未収消費税等	66,791	26,923
関係会社短期貸付金	1,315,040	1,504,960
繰延税金資産	376,272	370,951
その他の流動資産	60,868	101,684
貸倒引当金	54,172	54,781
流動資産合計	11,999,424	12,398,548
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	1,801,592	1,731,203
構築物（純額）	19,625	15,587
機械及び装置（純額）	7,331	6,189
車両運搬具（純額）	53	42
工具、器具及び備品（純額）	507,065	486,072
土地	1,475,939	1,465,393
有形固定資産合計	<sup>2</sup> 3,811,608	<sup>2</sup> 3,704,488
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	129,109	61,607
電話加入権	6,605	6,605
その他の無形固定資産	46	36
無形固定資産合計	135,761	68,249
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	600,813	576,693
関係会社株式	1,371,679	1,371,679
出資金	4,900	4,900
関係会社出資金	606,224	606,224
破産更生債権等	119,394	-
長期前払費用	854	323
差入保証金	10,944	11,129
会員権	58,550	58,550
その他の投資等	117,376	164,772
貸倒引当金	170,714	57,750
投資その他の資産合計	2,720,024	2,736,522
固定資産合計	6,667,394	6,509,260
資産合計	18,666,819	18,907,808

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	126,998	80,163
買掛金	<sup>1</sup> 1,916,595	<sup>1</sup> 1,386,838
未払金	<sup>1</sup> 237,174	<sup>1</sup> 439,271
未払費用	57,102	62,359
未払法人税等	5,198	-
前受金	173	1,182
賞与引当金	173,598	186,738
役員賞与引当金	20,000	23,000
事業構造改善引当金	150,000	-
その他の流動負債	28,493	34,002
<b>流動負債合計</b>	<b>2,715,333</b>	<b>2,213,556</b>
<b>固定負債</b>		
繰延税金負債	14,705	51,095
その他の固定負債	177,857	177,857
<b>固定負債合計</b>	<b>192,562</b>	<b>228,952</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,907,896</b>	<b>2,442,509</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,216,945	2,216,945
資本剰余金		
資本準備金	2,063,905	2,063,905
その他資本剰余金	5,053	5,058
<b>資本剰余金合計</b>	<b>2,068,959</b>	<b>2,068,964</b>
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	274,318	274,318
その他利益剰余金		
別途積立金	13,325,632	12,945,632
繰越利益剰余金	190,720	1,217,041
<b>利益剰余金合計</b>	<b>13,790,672</b>	<b>14,436,992</b>
自己株式	2,325,837	2,325,927
<b>株主資本合計</b>	<b>15,750,739</b>	<b>16,396,975</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	8,182	65,594
繰延ヘッジ損益	-	2,729
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>8,182</b>	<b>68,323</b>
<b>純資産合計</b>	<b>15,758,922</b>	<b>16,465,299</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>18,666,819</b>	<b>18,907,808</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	8,394,794	7,738,386
役務収益	1,800,272	2,049,514
売上高合計	<sup>1</sup> 10,195,066	<sup>1</sup> 9,787,900
<b>売上原価</b>		
製品期首たな卸高	640,878	541,463
当期製品製造原価	<sup>1</sup> 5,700,657	<sup>1</sup> 5,732,835
当期製品仕入高	<sup>1</sup> 1,546,566	<sup>1</sup> 1,241,760
合計	7,888,101	7,516,059
他勘定振替高	<sup>2</sup> 2,833	<sup>2</sup> 6,713
製品期末たな卸高	541,463	758,617
製品売上原価	<sup>8</sup> 7,343,805	<sup>8</sup> 6,764,155
売上総利益	2,851,261	3,023,745
販売費及び一般管理費	<sup>3, 4</sup> 2,649,565	<sup>3, 4</sup> 2,624,911
営業利益	201,696	398,834
<b>営業外収益</b>		
受取利息	9,795	20,669
受取配当金	<sup>1</sup> 139,464	<sup>1</sup> 277,673
為替差益	-	379,717
業務受託料	<sup>1</sup> 370,523	<sup>1</sup> 357,444
受取賃貸料	<sup>1</sup> 124,299	<sup>1</sup> 102,632
雑収入	20,523	33,847
営業外収益合計	664,605	1,171,985
<b>営業外費用</b>		
為替差損	33,214	-
業務受託原価	349,366	327,388
賃貸収入原価	113,179	94,293
雑損失	1,527	1,342
営業外費用合計	497,287	423,024
経常利益	369,013	1,147,794
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	<sup>5</sup> 1,674
投資有価証券売却益	-	15,000
特別利益合計	-	16,674
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	-	<sup>6</sup> 4,321
固定資産除却損	<sup>7</sup> 1,644	<sup>7</sup> 998
事業構造改善費用	<sup>9</sup> 150,000	-
特別損失合計	151,644	5,319
税引前当期純利益	217,369	1,159,149

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
法人税、住民税及び事業税	22,378	117,020
法人税等調整額	154,282	18,083
法人税等合計	176,661	135,103
当期純利益	40,708	1,024,045

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		4,732,637	79.9	4,442,971	78.2
労務費		322,166	5.5	375,211	6.6
外注加工費		563,267	9.5	530,222	9.4
経費		304,021	5.1	330,869	5.8
当期総製造費用		5,922,092	100.0	5,679,274	100.0
仕掛品他勘定振替高		-		-	
仕掛品期首たな卸高		469,643		691,078	
合計		6,391,735		6,370,353	
仕掛品期末たな卸高		691,078		637,517	
当期製品製造原価		5,700,657		5,732,835	

(注)

前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
原価計算の方法 組別(シリーズ別)総合原価計算を採用しております。		原価計算の方法 組別(シリーズ別)総合原価計算を採用しております。	
経費のうち主なものは次のとおりであります。		経費のうち主なものは次のとおりであります。	
消耗品費	23,434千円	消耗品費	24,795千円
運賃荷造費	78,840	運賃荷造費	63,003
減価償却費	94,297	減価償却費	134,798
支払手数料	33,879	支払手数料	33,830

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	2,216,945	2,216,945
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,216,945	2,216,945
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	2,063,905	2,063,905
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,063,905	2,063,905
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	5,097	5,053
当期変動額		
自己株式の処分	43	4
当期変動額合計	43	4
当期末残高	5,053	5,058
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	2,069,003	2,068,959
当期変動額		
自己株式の処分	43	4
当期変動額合計	43	4
当期末残高	2,068,959	2,068,964
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	274,318	274,318
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	274,318	274,318
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	13,325,632	13,325,632
当期変動額		
別途積立金の取崩	-	380,000
当期変動額合計	-	380,000
当期末残高	13,325,632	12,945,632
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	527,740	190,720

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	377,728	377,725
別途積立金の取崩	-	380,000
当期純利益	40,708	1,024,045
<b>当期変動額合計</b>	<b>337,019</b>	<b>1,026,320</b>
<b>当期末残高</b>	<b>190,720</b>	<b>1,217,041</b>
<b>利益剰余金合計</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>14,127,692</b>	<b>13,790,672</b>
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	40,708	1,024,045
<b>当期変動額合計</b>	<b>337,019</b>	<b>646,320</b>
<b>当期末残高</b>	<b>13,790,672</b>	<b>14,436,992</b>
<b>自己株式</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>2,325,734</b>	<b>2,325,837</b>
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	153	43
<b>当期変動額合計</b>	<b>103</b>	<b>89</b>
<b>当期末残高</b>	<b>2,325,837</b>	<b>2,325,927</b>
<b>株主資本合計</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>16,087,906</b>	<b>15,750,739</b>
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	40,708	1,024,045
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	109	47
<b>当期変動額合計</b>	<b>337,166</b>	<b>646,235</b>
<b>当期末残高</b>	<b>15,750,739</b>	<b>16,396,975</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>  その他有価証券評価差額金</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>4,400</b>	<b>8,182</b>
<b>    当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,782	57,411
<b>当期変動額合計</b>	<b>3,782</b>	<b>57,411</b>
<b>当期末残高</b>	<b>8,182</b>	<b>65,594</b>
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>  当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	2,729

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期変動額合計	-	2,729
当期末残高	-	2,729
評価・換算差額等合計		
当期首残高	4,400	8,182
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,782	60,141
当期変動額合計	3,782	60,141
当期末残高	8,182	68,323
純資産合計		
当期首残高	16,092,306	15,758,922
当期変動額		
剰余金の配当	377,728	377,725
当期純利益	40,708	1,024,045
自己株式の取得	256	132
自己株式の処分	109	47
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,782	60,141
当期変動額合計	333,384	706,376
当期末残高	15,758,922	16,465,299

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

##### (1) デリバティブ

###### 時価法

#### 3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### 4. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

###### 定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)等については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

工具、器具及び備品 2～20年

###### (会計方針の変更)

###### (固定資産の減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ868千円増加しております。

##### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

###### 定額法

なお、耐用年数については、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。また、市場販売目的のソフトウェアについては販売可能な見込み期間(3年)に基づいております。

##### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

#### 5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は為替差損益として処理しております。

#### 6. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権につきましては貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権につきましては個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員への賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

##### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、数理計算上の差異は、発生時に一括処理することとしております。

(5) 事業構造改善引当金

事業構造改革に伴い、今後発生が見込まれる費用について合理的な見積額を計上しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約取引について振当処理の要件を満たす場合は、振当処理を行うこととしております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引等

ヘッジ対象：外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

当社は、社内管理規程に基づき外貨建取引のうち、当社に為替変動リスクが帰属する場合は、そのリスクヘッジのため、実需原則に基づき為替予約取引等を行うものとしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産		
売掛金	3,288,957千円	2,299,276千円
未収入金	74,666	43,335
流動負債		
買掛金	10,605	4,627
未払金	37,021	36,397

2 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	5,127,485千円	5,239,319千円

3 保証債務

次の関係会社等について、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
JCMメイホウ(株)	368,075千円	JCMメイホウ(株) 226,952千円
JCMシステムズ(株)	575,912	JCMシステムズ(株) 469,055
計	943,987	計 696,007

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当期の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	2,994千円	30,345千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
関係会社への売上高	8,388,897千円	7,300,137千円
関係会社からの仕入高	1,855,282	1,566,855
関係会社からの受取配当金	126,883	265,133
関係会社からの業務受託料	365,385	352,901
関係会社からの受取賃貸料	124,299	102,632

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
販管費への振替高	2,135千円	9,071千円
その他	697	2,357
計	2,833	6,713

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度15%、当事業年度17%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度85%、当事業年度83%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
給料・賞与	425,707千円	451,947千円
賞与引当金繰入額	99,423	105,982
役員報酬	203,346	188,871
役員賞与引当金繰入額	20,000	23,000
退職給付費用	85,398	56,720
法定福利費	162,729	163,499
租税公課等	134,054	58,661
試験研究費	422,897	403,631
サービス費	28,122	170,759
支払手数料	380,463	430,584
減価償却費	176,306	209,916
貸倒引当金繰入額	10,315	1,350

(注) 試験研究費には賞与引当金繰入額39,586千円(前事業年度 38,616千円)が含まれております。

4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	978,260千円	934,575千円

5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	- 千円	1,613千円
工具、器具及び備品	-	61

6 固定資産売却損の主な内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	- 千円	860千円
工具、器具及び備品	-	1
土地	-	3,460

7 固定資産除却損の主な内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	- 千円	16千円
機械及び装置	20	136
工具、器具及び備品	1,542	845
ソフトウェア	78	-

8 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	50,437千円	77,448千円

9 事業構造改善費用は、グループ内取引の見直しに伴う事業構造改革の一環として実施する人員適正化施策等に伴い発生する費用であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	2,682	0	0	2,682
合計	2,682	0	0	2,682

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによるものであり、減少0千株は単元未満株式の買増請求によるものであります。

当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	2,682	0	0	2,682
合計	2,682	0	0	2,682

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによるものであり、減少0千株は単元未満株式の買増請求によるものであります。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

該当事項はありません。

(イ)無形固定資産

該当事項はありません。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	9,910	8,396	1,514

(単位：千円)

	当事業年度(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	9,910	9,910	-

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1,514	-
1年超	-	-
合計	1,514	-

(注) なお、取得価額相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占めるその割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	1,651	1,514
減価償却費相当額	1,651	1,514

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

( 有価証券関係 )

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式1,371,679千円 関係会社出資金606,224千円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式1,371,679千円 関係会社出資金606,224千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	65,967千円	70,960千円
役員退職慰労未払金	66,705	66,705
一括償却資産損金算入限度超過額	13,386	2,889
投資有価証券評価損	8,465	8,465
ゴルフ会員権評価損	18,545	18,545
貸倒引当金損金算入限度超過額	63,851	42,761
たな卸資産評価損	163,236	141,825
販売費及び一般管理費否認額	37,924	90,577
無形固定資産否認額	174,798	141,504
繰越欠損金	569,429	369,026
関係会社株式	338,684	338,684
事業構造改善引当金	57,000	-
その他	29,028	73,091
小計	1,607,025	1,365,039
評価性引当金	1,199,747	953,875
繰延税金資産合計	407,277	411,163
繰延税金負債		
前払年金費用	44,603	62,487
その他有価証券評価差額金	1,107	27,146
その他	-	1,672
繰延税金負債合計	45,711	91,307
繰延税金資産の純額	361,566	319,856

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.2	1.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	23.8	10.5
住民税均等割	3.3	0.6
過年度税効果見積差額	0.1	-
評価性引当額	38.7	18.5
法人税等還付額	1.1	-
税額控除	-	0.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	11.2	-
その他	7.0	1.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	81.0	11.7

(企業結合等関係)  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	584円09銭	610円27銭
1株当たり当期純利益金額	1円51銭	37円96銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益金額(千円)	40,708	1,024,045
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	40,708	1,024,045
期中平均株式数(株)	26,980,482	26,980,334

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他 有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		株式会社上新電機	450,000	404,100
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	163,900	72,607		
株式会社みずほフィナンシャルグループ(優先株)	50,000	24,219		
株式会社ムサシ	17,000	19,465		
株式会社みずほフィナンシャルグループ	60,000	11,940		
株式会社ダイナムジャパンホールディングス	64,187	10,502		
新光商事株式会社	10,000	8,860		
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	2,200	8,305		
株式会社りそなホールディングス	14,425	7,039		
アクリーティブ株式会社	270	4,776		
その他3銘柄	2,829	4,878		
計			961,551	576,693

【債券】

該当事項はありません。

【その他】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,940,723	15,571	25,282	2,931,011	1,199,808	78,790	1,731,203
構築物	95,300	-	1,715	93,585	77,997	4,038	15,587
機械及び装置	39,666	-	3,800	35,865	29,676	1,006	6,189
車両運搬具	2,852	-	-	2,852	2,809	10	42
工具、器具及び備品	4,384,613	126,944	96,458	4,415,099	3,929,027	146,814	486,072
土地	1,475,939	-	10,546	1,465,393	-	-	1,465,393
有形固定資産計	8,939,094	142,516	137,803	8,943,807	5,239,319	230,661	3,704,488
無形固定資産							
ソフトウェア	1,361,037	45,810	12,056	1,394,790	1,333,182	113,312	61,607
電話加入権	6,605	-	-	6,605	-	-	6,605
その他の無形固定資産	195	-	-	195	158	9	36
無形固定資産計	1,367,837	45,810	12,056	1,401,590	1,333,341	113,322	68,249
長期前払費用	15,936	200	-	16,136	15,813	731	323

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	224,886	1,529	113,714	170	112,531
賞与引当金	173,598	186,738	173,598	-	186,738
役員賞与引当金	20,000	23,000	20,000	-	23,000
事業構造改善引当金	150,000	-	150,000	-	-

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

1) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	690,958
預金	
郵便貯金	1
当座預金	3,793,671
普通預金	518,478
別段預金	679
小計	4,312,829
合計	5,003,788

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
アイ電子株式会社	38,040
日信特器株式会社	36,808
株式会社アルメックス	30,035
株式会社高見沢サイバネティックス	28,448
シンフォニアエンジニアリング株式会社	22,907
その他	59,030
合計	215,270

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月	34,080
5月	79,082
6月	50,994
7月	49,575
8月	1,536
9月以降	-
合計	215,270

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
JCMシステムズ株式会社	1,738,683
JCM GOLD (H.K.) LTD.	226,722
富士通株式会社	209,984
JCM EUROPE GMBH.	192,892
日本電気株式会社	145,219
その他	439,424
合計	2,952,925

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{(B)}$ 365
3,903,423	9,956,343	10,906,841	2,952,925	78.7	125.7

(注) 当期発生高は消費税等を含んでおります。

4) 商品及び製品

品目	金額(千円)
製品	
貨幣処理機器	366,227
遊技場向機器	392,390
合計	758,617

5) 仕掛品

品目	金額(千円)
貨幣処理機器	533,507
遊技場向機器	103,609
その他	400
合計	637,517

## 6) 原材料及び貯蔵品

品目	金額(千円)
原材料	
ユニット部品	219,496
電子部品	149,190
電気部品	66,169
成型部品	25,468
金属加工部品	85,390
その他	119,889
合計	665,604

## 7) 関係会社短期貸付金

相手先	金額(千円)
JCM GOLD (H.K.) LTD.	1,504,960
合計	1,504,960

## 固定資産

## 1) 関係会社株式

銘柄	金額(千円)
JCM AMERICAN CORP.	875,639
J C Mメイホウ株式会社	340,000
J C Mシステムズ株式会社	140,070
J-CASH MACHINE (THAILAND) CO.,LTD.	15,970
合計	1,371,679

流動負債

1) 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社フィッシュ・M	78,159
ネッツエスアイ東洋株式会社	1,217
日邦産業株式会社	786
合計	80,163

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月	22,406
5月	27,946
6月	13,107
7月	16,703
合計	80,163

2) 買掛金

相手先	金額(千円)
アクリーティブ株式会社	366,623
株式会社立花エレテック	100,438
株式会社アドバンス	62,212
株式会社ユース	55,908
和田精工株式会社	43,528
その他	758,127
合計	1,386,838

(注) アクリーティブ株式会社は、ファクタリングによるものであります。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取・売渡手数料	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.jcm-hq.co.jp/">http://www.jcm-hq.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第59期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月27日近畿財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年6月27日近畿財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第60期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月9日近畿財務局長に提出

（第60期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月13日近畿財務局長に提出

（第60期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月14日近畿財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

平成24年6月28日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成24年12月19日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号（吸収分割）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月26日

日本金銭機械株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小西 幹男 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々木 健次 印

## < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本金銭機械株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本金銭機械株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本金銭機械株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本金銭機械株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成25年 6月26日

日本金銭機械株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小西 幹男 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々木 健次 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本金銭機械株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第60期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本金銭機械株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。  
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【会社名】	日本金銭機械株式会社
【英訳名】	JAPAN CASH MACHINE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上東 洋次郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市平野区西脇二丁目3番15号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目町8番16号)

## 1【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役上東洋次郎は、当社の第60期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

## 2【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【会社名】	日本金銭機械株式会社
【英訳名】	JAPAN CASH MACHINE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上東 洋次郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市平野区西脇二丁目3番15号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目町8番16号)

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長上東洋次郎は、当社及び連結子会社(当社グループ)の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成25年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社、連結子会社8社及び持分法適用会社1社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社8社中5社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社3社及び持分法適用会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高(連結会社間取引消去後)の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している4事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、平成25年3月31日現在において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4【付記事項】

該当事項はありません。

## 5【特記事項】

該当事項はありません。